



# 特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合 2024 年度定時総会

日時：2024 年 5 月 23 日（木）14:00～17:00  
会場：早稲田大学早稲田キャンパス 11 号館 4 階 406 号室

## 開会

【挨拶】 14:00～14:05 会長：安岡 善文

【議事】 14:05～14:35

- 第 1 号議案：新役員の選任
- 第 2 号議案：代表理事(会長および副会長)の選任
- 第 3 号議案：2023 年度事業報告および 2024 年度事業計画案
- 第 4 号議案：2023 年度収支決算報告および 2024 年度予算案
- 報告事項 1：横幹連合創立 20 周年記念事業について

【木村賞表彰、受賞論文紹介】 14:45～15:45

受賞者 横川 慎二氏（電気通信大学）  
「感染症予防難易度の高い社会福祉施設の空気質管理」

【特別講演】 16:00～17:00

タイトル：「我が国の標準化と品質管理の現状と挑戦」  
講演者：朝日 弘氏（一般財団法人日本規格協会 理事長）  
概要：標準化や品質管理の概念は、製品に限らず組織運営、社会構造のさまざまな仕組みにまで浸透し、時代を経るごとに拡大しています。戦後直後に設立された弊協会は伝統を守りつつ、時代の要請に柔軟に対応して参りました。本講演では、それらの歴史を振り返りつつ、現在進行する産学官による「日本型標準加速化モデル」、「日本クオリティ協議会」との連携強化の取組など、国内外の動向を踏まえ弊協会の活動と展望をご紹介します。

## 閉会

■懇親会 17:10～18:30 11 号館 4 階 408 号室（参加費 5,000 円）

■2024 年度第 1 回理事会（11 号館 4 階 406 号室）  
懇親会終了後、1 時間程度を予定）

## ■特別講演講師

朝日 弘 (あさひ ひろし) 氏 略歴

学 歴 神奈川県立湘南高等学校卒業 (昭和 52 年 3 月)  
東京大学工学部資源開発工学科卒 (昭和 57 年 3 月)  
ペンシルバニア州立大学大学院資源経済学科修士 (平成元年 8 月)

1982 年 4 月 通商産業省入省  
1994 年 4 月 // 貿易局総務課 技術審査委員  
1995 年 3 月 // 工業技術院標準部標準課 技術審査委員  
1996 年 5 月 // // 標準課 標準企画室長  
1997 年 6 月 ジェトロ・ロンドン・センター、金属部所長  
2000 年 7 月 // 工業技術院標準部 標準課 標準企画官  
2001 年 1 月 経済産業省 産業技術環境局 基準認証政策課 工業標準調査室長  
2001 年 7 月 金属鉱業事業団調査計画部長  
2004 年 2 月 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 金属資源開発調査企画グループリーダー  
2004 年 6 月 経済産業省 資源エネルギー庁資源・燃料部 鉱物資源課長  
2007 年 7 月 // 産業技術環境局 基準認証政策課長  
2008 年 7 月 // 大臣官房参事官(技術担当)  
2010 年 3 月 // 大臣官房審議官(エネルギー・環境担当)  
2012 年 7 月 // 大臣官房技術総括審議官  
2013 年 6 月 // 退職  
2013 年 10 月 住友金属鉱山(株)入社、資源事業本部 技術部 首席技師長  
2014 年 6 月 // 執行役員、資源事業本部副本部長  
2017 年 6 月 // 取締役、執行役員、資源事業本部長  
2018 年 6 月 // 取締役、常務執行役員、資源事業本部長  
2020 年 6 月 // 取締役、専務執行役員、資源事業本部長  
2021 年 6 月 住友金属鉱山(株)取締役 退任  
2021 年 6 月 (一財)日本規格協会 理事長(現職)  
2022 年 4 月 (一社)資源・素材学会 会長(~2023 年 3 月)

# 1. 第1号議案：新役員の選任 2024年度横幹連合役員（案）

役職		#	任期				氏名	所属	所属学会	推薦母体
			初就任	始		終				
理事	留任	1	2007.4	2023.6	～	2025.6	椿 広計	統計数理研究所	日本品質管理学会	理事
理事	再任	2	2022.5	2024.5	～	2026.5	藤田 政之	金沢工業大学	計測自動制御学会	理事
理事	再任	3	2023.6	2024.5	～	2026.5	山上 伸	日本オペレーションズ・リサーチ学会	日本オペレーションズ・リサーチ学会	理事
理事	留任	4		2023.6	～	2025.6	青山 和浩	東京大学	計測自動制御学会	理事
理事	留任	5		2023.6	～	2025.6	伊藤 敦	京都府立大学	日本情報経営学会	理事
理事	留任	6	2021.4	2023.6	～	2025.6	伊藤 誠	筑波大学	日本品質管理学会	理事
理事	留任	7		2023.6	～	2025.6	猪原 健弘	東京工業大学	社会情報学会	学会
理事	留任	8		2023.6	～	2025.6	大江 秋津	東京理科大学	経営情報学会	学会
理事	留任	9		2023.6	～	2025.6	下野 僚子	早稲田大学	日本品質管理学会	学会
理事	留任	10		2023.6	～	2025.6	鷹羽 浄嗣	立命館大学	システム制御情報学会	学会
理事	留任	11		2023.6	～	2025.6	田中 敏幸	慶應義塾大学	計測自動制御学会	学会
理事	留任	12	2019.4	2023.6	～	2025.6	林 勲	関西大学	日本知能情報フレンジィ学会	学会
理事	留任	13		2023.6	～	2025.6	水田 正弘	統計数理研究所	応用統計学会 日本統計学会	学会
理事	新任	14		2024.5	～	2026.5	稲見 昌彦	東京大学	日本バーチャルリアリティ学会	学会
理事	新任	15		2024.5	～	2026.5	歌代 豊	明治大学	国際戦略経営研究会	学会
理事	再任	16	2022.5	2024.5	～	2025.5	川中 孝章	東京大学	日本経営システム学会	理事
理事	新任	17		2024.5	～	2026.5	木村 光宏	法政大学	日本信頼性学会	学会
理事	再任	18	2020.4	2024.5	～	2026.5	佐藤 一弘	東洋製罐グループホールディングス	日本開発工学会	学会
理事	再任	19	2020.4	2024.5	～	2026.5	長沢 伸也	早稲田大学	商品開発・管理学会	学会
理事	新任	20		2024.5	～	2026.5	林 裕子	山口大学	日本MOT学会	学会
理事	新任	21		2024.5	～	2026.5	松野 文俊	大阪工業大学	日本ロボット学会	学会
理事	新任	22		2024.5	～	2026.5	丸山 浩平	早稲田大学	研究・イノベーション学会	学会
理事	新任	23		2024.5	～	2026.5	山下 善之	東京農工大学	計測自動制御学会	学会
監事	留任	24	2022.5	2023.6	～	2025.6	川崎 茂	滋賀大学	日本統計学会	理事
監事	新任	25	2015.4	2024.5	～	2026.5	藤井 享	豊橋技術科学大学	国際戦略経営研究会	理事

注：初就任時期は任意団体の時期を含む

名誉会長		1		2008.4	～		吉川 弘之	大阪国際工科専門職大学学長		
顧問		1		2013.4	～		木村 英紀	東京大学名誉教授 大阪大学名誉教授		
顧問		2		2018.10	～		鈴木 久敏	筑波大学名誉教授		

## 2024年度 新任・再任役員候補者 略歴

### 理事候補略歴

<sup>ふじた まさゆき</sup>  
藤田 政之 (再任) (金沢工業大学)

1985年 早稲田大学大学院博士後期課程退学  
1985～1998年 金沢大学助手、講師、助教授、JAIST 助教授を経て  
1999～2004年 金沢大学教授  
1994～1995年 ミュンヘン工科大学 (文科省在外研究員)  
2005～2020年 東京工業大学教授  
2012～2019年 JST CREST 研究総括  
2020～2024年 東京大学教授  
2024年～ 金沢工業大学教授

横幹連合理事 (副会長)、SICE 会長、IEEE CSS Vice Presidentなどを歴任。SICE 論文賞、SICE 教育貢献賞、IEEE TCST Outstanding Paper Award、IEEE CSS Distinguished Member Award などを受賞。システム制御の研究に従事。SICE 名誉会員、SICE フェロー、IEEE ライフフェロー。工学博士。  
現職 (所属・役職) : 金沢工業大学 教授  
専門分野 : システム制御

<sup>やまがみ しん</sup>  
山上 伸 (再任) (公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会)

1979年3月 東京大学工学部計数工学科卒業  
1979年4月 東京ガス入社  
1990年 Cornell U. Ph.D.  
2014年 東京ガス 常務執行役員 エネルギー生産本部長  
2016年 同 同 IT 本部長、基盤技術部・環境部担当  
2017年 同 同 IT 本部長・技術本部長  
2018年 同 参与  
2022年3月 同社退職  
現職 (所属・役職) : 公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会 会長  
専門分野 : エネルギー、OR

<sup>いなみ まさひこ</sup>  
稲見 昌彦 (新任) (東京大学)

1999年 東京大学大学院 工学系研究科 先端学際工学専攻 博士課程修了 博士(工学)  
1999年～2001年 東京大学 国際・産学共同研究センター リサーチアソシエイト  
2001年～2003年 東京大学 大学院 情報理工学系研究科 システム情報学専攻助手  
2003年～2005年 電気通信大学 電気通信学部 知能機械工学科 講師  
2005年～2006年 電気通信大学 電気通信学部 知能機械工学科 助教授  
2006年～2008年 電気通信大学 電気通信学部 教授  
2008年～2015年 慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授  
2015年～ 東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授 (学内併任)  
2016年～ 東京大学 先端科学技術研究センター 教授  
2022年～ 東京大学 総長特任補佐  
2023年～ 東京大学 先端科学技術研究センター 副所長  
現職 (所属・役職) : 東京大学 先端科学技術研究センター 教授  
専門分野 : バーチャルリアリティ、人間拡張工学

<sup>うたしろ ゆたか</sup>  
歌代 豊 (新任) (明治大学)

1982年 上智大学 理工学部 電気・電子工学科 卒業  
1982年～2004年 株式会社三菱総合研究所  
1992年 筑波大学 大学院経営・政策科学研究科 修士課程修了  
2003年～2004年 大阪大学 大学院経済学研究科 客員教授

2004年～2007年 明治大学 経営学部 助教授  
2007年～2009年 明治大学 経営学部 准教授  
2009年～現在 明治大学経営学部 教授  
現職（所属・役職）： 明治大学経営学部  
専門分野：経営戦略論・戦略マネジメント・DX

かわなか たかあき  
川中 孝章（再任）（東京大学）

1988年 早稲田大学大学院理工学研究科機械工学専攻工業経営学専門分野修士課程修了  
1988年～1994年 松下電器産業（現 パナソニック）株式会社  
1994年～1997年 南海電設株式会社  
1997年～2010年 ネットワンシステムズ株式会社  
2008年～現在 明治大学商学部 特任研究員  
2012年 東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻博士課程修了  
2012年～2014年 東京大学人工物工学研究センター 特任研究員  
2012年～2013年 共愛学園前橋国際大学国際社会学部 非常勤講師  
2014年～2016年 東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻 特任研究員  
2015年～2017年 明治大学商学部 兼任講師  
2017年～2021年 東京大学大学院工学系研究科国際工学教育推進機構 講師  
2021年～現在 東京大学大学院工学系研究科国際工学教育推進機構 准教授  
2021年～現在 早稲田大学総合研究機構価値創造マネジメント研究所 招聘研究員  
現職（所属・役職）： 東京大学大学院工学系研究科国際工学教育推進機構 准教授 博士(工学)  
専門分野：経営システム学、経営工学

きむら みつひろ  
木村 光宏（新任）（法政大学）

1994年3月 広島大学大学院 システム工学専攻修了 博士（工学）取得  
1994年4月 鳥取大学工学部 社会開発システム工学科 助手  
1995年4月 鳥取大学工学部 社会開発システム工学科 助教授  
2001年9月 法政大学工学部 経営工学科 助教授  
2007年4月 法政大学工学部 経営工学科 教授  
2008年4月 法政大学理工学部 経営システム工学科 教授 現在に至る  
現職（所属・役職）： 法政大学理工学部経営システム工学科・教授  
専門分野：信頼性工学

きとう かずひろ  
佐藤 一弘（再任）（東洋製罐グループホールディングス）

1985年～ 東洋製罐株式会社入社  
2010年～ 東洋製罐株式会社新規事業部長  
2014年～ 東洋製罐グループホールディングス株式会社ライフサイエンス事業推進室長  
2016年～ 株式会社リンフォテック代表取締役社長  
2021年～ 現職  
現職（所属・役職）： 東洋製罐グループホールディングス株式会社 常務執行役員 総合研究所長  
専門分野：技術経営、研究開発マネジメント、知的財産戦略、高分子材料

ながさわ しんや  
長沢 伸也（再任）（早稲田大学）

1978年 早稲田大学理工学部工業経営学科卒業  
1980年 同大学大学院理工学研究科修士課程修了（工学修士）  
1986年 工学博士（早稲田大学）  
1981年～ 明治大学工学部助手  
1988年～ 産業能率大学専任講師  
1991年～ 亜細亜大学経営学部助教授  
1995年～ 立命館大学経営学部教授  
2003年～ 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授  
2008年～ 同大学大学院商学研究科教授（改組による）

2016年～ 同大学大学院経営管理研究科教授（改組による）  
現職（所属・役職）：早稲田大学大学院経営管理研究科（早稲田大学ビジネススクール）教授  
専門分野：ラグジュアリーブランディング論

林 裕子（新任）（山口大学）

1988年 東京大学卒  
1988年 日本IBM株式会社  
1991年 マサチューセッツ工科大学 Center for Advanced Engineering Study 修了  
1992年 マサチューセッツ工科大学 Technology and Policy Program（理学修士）  
2003年 東京大学先端科学技術研究センター客員研究員  
2006年 東京大学大学院先端学際工学 博士(学術)取得  
2007年 山口大学大学院技術経営研究科 非常勤講師  
2012年 山口大学大学院技術経営研究科 准教授(特命)  
2015年～ 山口大学大学院技術経営研究科 教授(特命)  
2018年～ 東京大学、大学院新領域創成科学研究科 メディカル情報生命、客員共同研究員  
現職（所属・役職）：山口大学大学院技術経営研究科教授（特命）、東京大学大学院新領域創成科学研究科  
メディカル情報生命共同研究員、  
JCRファーマ株式会社 社外取締役  
日本MOT学会理事・副会長  
特定非営利活動法人 イノベーション創薬研究所（IDDI: Institute for Drug  
Discovery Innovation） 理事  
横浜国立大学高等研究院 運営諮問会議委員  
専門分野：メディカルイノベーション、科学技術政策

松野 文俊（新任）（大阪工業大学）

1981年 名古屋工業大学工学部計測工学科卒業  
1986年 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻制御工学分野博士後期課程修了、工学  
博士  
1986年～ 大阪大学基礎工学部助手  
1991年～ 神戸大学工学部講師  
1992年～ 神戸大学工学部助教授  
1996年～ 東京工業大学大学院総合理工学研究科助教授  
2001年～ 日本ロボット学会欧文誌理事  
2003年～ 電気通信大学電気通信学部知能機械工学科教授  
2005年～ 計測自動制御学会理事  
2005年～ Co-Chair of IEEE Robotics and Automation Society Technical Committee on  
Safety, Security, and Rescue Robotics  
2005年～ 国際レスキューシステム研究機構副会長  
2009年～ 京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻教授  
2012年～ 日本ロボット学会学会誌理事  
2012年～ 人工生命とロボット国際学会理事  
2016年～ システム制御情報学会副会長  
2018年～ システム制御情報学会会長  
2019年～ 日本ロボット学会副会長  
2022年～ 日本ロボット学会監事  
2023年～ 大阪工業大学工学部電子情報システム工学科特任教授  
2023年～ 福島国際研究教育機構(F-REI) 副分野長（ロボット）  
2023年～ 京都大学名誉教授  
現職（所属・役職）：大阪工業大学 工学部電子情報システム工学科 特任教授  
専門分野：ロボティクス、制御工学

まるやま こうへい  
丸山 浩平 (新任) (早稲田大学)

1988年～1991年 明治大学 工学部機械工学科卒業 学士(工学)  
1992年～1993年 明治大学 工学研究科機械工学専攻博士前期課程修了 修士(工学)  
2001年～2003年 東京農工大学 工学研究科生命工学専攻博士後期課程修了 博士(工学)  
1994年～2005年 JUKI株式会社 中央技術研究所・研究員  
2005年～2005年 東京農工大学・産学官連携研究員  
2005年～2008年 早稲田大学 生命医療工学研究所・研究助手/講師(任期付)/准教授(任期付)  
2009年～2011年 早稲田大学 研究戦略センター・准教授(任期付)  
2011年～2013年 東京農工大学 先端産学連携研究推進センター・主任 URA  
2014年～2022年 早稲田大学 研究戦略センター・准教授(任期付)/教授(任期付)  
2015年～2023年 東京農工大学 大学院工学府 産業技術専攻・非常勤講師  
2017年～在職中 科学技術振興機構 研究開発戦略センター・特任フェロー  
2023年～在職中 早稲田大学 研究戦略センター・教授  
現職(所属・役職): 早稲田大学研究戦略センター・教授  
専門分野: 研究戦略・評価、研究マネジメント、バイオセンシング

やました よしゆき  
山下 善之 (新任) (東京農工大学)

1982年3月 東北大学工学部化学工学科卒業  
1987年3月 東北大学大学院博士課程修了 (工学博士)  
1987年4月 東北大学助手  
1992年12月 東北大学助教授  
2007年4月～ 東京農工大学教授  
2006年3月～2008年2月 計測自動制御学会理事  
2011年度～2020年度 計装制御技術会議企画委員長  
2013年4月～2015年3月 化学工学会理事  
2016年6月～2022年3月 日本学術振興会プロセスシステム工学第143委員会委員長  
2021年6月～現在 自動制御協議会理事  
2022年2月～現在 計測自動制御学会副会長。  
他日本学術会議 IFAC 分科会自動制御の多分野応用小委員会委員、化学工学会 AI・IoT 委員会委員長、PSE 2021+ Symposium, General Chair を歴任。  
現職(所属・役職): 東京農工大学 工学部 化学物理工学科 教授  
専門分野: プラント制御、プロセスオートメーション

#### 監事候補略歴

ふじい とおる  
藤井 享 (新任) (豊橋技術科学大学)

1990年 法政大学社会学部社会学科卒業  
1990年～2019年 株式会社日立製作所  
2007年～2008年 中央大学大学院総合政策研究科博士前期課程修了 修士(総合政策)  
2008年～2012年 中央大学大学院総合政策研究科博士後期課程修了 博士(学術)  
2012年～2014年 群馬大学研究・産学連携戦略推進機構 客員教授  
2014年～2023年 尚美学園大学大学院総合政策研究科 客員教授  
2020年～2023年 北見工業大学工学部 教授  
(大学院工学研究科マネジメント工学プログラム長・工学部地域国際系長・社会連携推進センター長・知的財産センター長・国立大学法人北海道国立大学機構オープンイノベーションセンター研究推進部門長)  
2024年～現在 豊橋技術科学大学総合教育院 教授  
現職(所属・役職): 豊橋技術科学大学総合教育院 教授  
専門分野: 俯瞰工学・技術経営・戦略的協創イノベーション

## 2. 第 2 号議案：代表理事(会長および副会長)の選任

定款第 14 条第 2 項「2 会長および副会長は総会にて選任する」にしたがい、第 1 号議案での新任および再任の役員候補者が原案通り承認され選任されることを停止条件として、新たに選任された新任および再任の理事を含む理事の中から、理事会が推薦する椿 広計氏(会長候補)、藤田政之氏および山上 伸氏(副会長候補)とし、それぞれを代表理事として選任する。

### 会長候補略歴

<sup>つばき</sup> 椿 <sup>ひろえ</sup> 広計 (新任) (統計数理研究所)

1982 年 東京大学大学院工学系研究科計数工学専攻修士課程修了

1982 年～1987 年 東京大学工学部計数工学科助手

1987 年～1997 年 慶應義塾大学理工学部数理科学科専任講師

1997 年～2000 年 筑波大学社会工学系助教授、

2000 年～2012 年 同教授、その後大学院ビジネス科学研究科教授

2005 年～2013 年 統計数理研究所リスク解析戦略研究センター長(2005 年～2007 年特任客員教授)

2007 年～2015 年 統計数理研究所データ科学研究系教授、総合研究大学院大学複合科学研究科教授

2010 年～2015 年 統計数理研究所副所長

2015 年～2019 年 独立行政法人統計センター理事長

2019 年～現在 情報・システム研究機構 理事 統計数理研究所長  
筑波大学名誉教授、統計数理研究所名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授

現職(所属・役職)：情報・システム研究機構 理事・統計数理研究所長

現在、総務省統計委員会委員長、総務省統計監理官、日本学術会議連携会員、  
(一社)品質工学会会長、自殺総合対策学会理事長、応用統計学会理事

専門分野：応用統計学・品質マネジメント

### 副会長候補略歴

<sup>ふじた</sup> 藤田 <sup>まさゆき</sup> 政之 (再任) (金沢工業大学)

1985 年 早稲田大学大学院博士後期課程退学

1985～1998 年 金沢大学助手、講師、助教授、JAIST 助教授を経て

1999～2004 年 金沢大学教授

1994～1995 年 ミュンヘン工科大学(文科省在外研究員)

2005～2020 年 東京工業大学教授

2012～2019 年 JST CREST 研究総括

2020～2024 年 東京大学教授

2024 年～ 金沢工業大学教授

横幹連合理事(副会長)、SICE 会長、IEEE CSS Vice President などを歴任。SICE 論文賞、SICE 教育貢献賞、IEEE TCST Outstanding Paper Award、IEEE CSS Distinguished Member Award などを受賞。システム制御の研究に従事。SICE 名誉会員、SICE フェロー、IEEE ライフフェロー。工学博士。

現職(所属・役職)：金沢工業大学 教授

専門分野：システム制御

### <sup>やまがみ</sup> 山上 <sup>しん</sup> 伸 (新任) (日本オペレーションズ・リサーチ学会)

1979 年 3 月 東京大学工学部計数工学科卒業

1979 年 4 月 東京ガス入社

1990 年 Cornell U. Ph.D.

2014 年 東京ガス 常務執行役員 エネルギー生産本部長

2016 年 同 同 IT 本部長、基盤技術部・環境部担当

2017 年 同 同 IT 本部長・技術本部長

2018 年 同 参与

2022 年 3 月 同社退職

現職（所属・役職）：公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会 会長  
専門分野：エネルギー、OR

### 3. 第3号議案：2023（令和5）年度事業報告および2024（令和6）年度事業計画案

#### 3-1 横幹連合 2023 年度事業報告・2024 年度事業計画

##### (A) 2023（令和5）年度事業報告

##### [1] 2023（令和5）年度の概況

横幹連合は、2023 年度に創立から 20 周年を迎え、創立 20 周年記念式典の開催や 20 周年記念特集号の発行を行った。また、理事会および横幹連合コンファレンスを対面とオンラインでのハイブリッド開催として実施しすることができた。

2023 年度の活動方針として、

- ① 横幹連合創立 20 周年記念事業の実施
- ② 調査研究事業の継続
- ③ TD 研究 (Transdisciplinary Research) の推進方策の検討
- ④ 横幹会議の実施
- ⑤ 普及啓発事業の実施
- ⑥ 広報事業の拡充
- ⑦ 横幹コトづくり至宝認定事業の推進
- ⑧ 持続可能な事業体制への転換

を打ち出し、この方針に沿った活動に注力した。

基盤的な学術活動である第 14 回横幹連合コンファレンスを、2023 年 12 月 16 日(土)・17 日(日)に開催した。東京大学工学部 3 号館を拠点とし、5 月にコロナが第 5 類に移行したとはいえ、関係各位の協力のもと、ハイブリッド形式で開催することができた。「対立・矛盾を克服する横幹知イノベーション：領域融合のトランスフォーメーションを目指して」をテーマに、総計 121 件の発表を得て、2 日間で 180 名の参加があった。

この第 14 回横幹連合コンファレンスに併設して、2023 年度の会員学会会長懇談会を開催した。会員学会から 21 名（うち横幹連合役員 4 名）、役員出席 21 名の合計 38 名の出席を得て、横幹連合の最近の活動状況、コトづくり至宝の選出方法、第 15 回横幹連合コンファレンスの紹介、Transdisciplinary (TD) 研究についての説明、またそれに基づいた意見交換を行った。

横幹連合の会誌「横幹」について、第 17 巻第 1 号(2023 年 4 月)、第 17 巻 2 号(2023 年 10 月)および第 17 巻第 3 号(20 周年記念特集号) (2024 年 3 月)を発行し J-STAGE にて公開した。

このほか、ホームページやニュースレターを通じて幅広く社会とのコミュニケーションを行った。また、これらの発行体制を強化する方向に、一歩前進した。

調査研究会については、「多価値相克状況における合意形成のための動的参照モデル調査研究会」主査：遠藤 薫氏（学習院大学）では、その目標を達成するために、①多様なステークホルダー間の相反する価値観にバランスのとれた意思決定と行動を可能にする理論的枠組みを、可視化可能な指標群、社会シミュレーション手法を備えた方法論として提示すること、②この方法論を、公共分野政策・産業ソリューションおよび複合災害の場面で、指標計測、シミュレーション、熟議等で構成するアーキテクチャとして社会実装し、その正当性を立証すること、を中心に、競争的資金への申請を検討した。「SDGs に資する産官学プロジェクト形成調査研究会」主査：椿 美智子氏（東京理科大学）では、SDGs 達成に資する学術横断的システムの姿を明らかにすることで、必要な産官学協働プロジェクトを企画し、その社会実現に向けた活動を組織することの検討を行い令和 5 年度社会技術研究開発事業「SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラムシナリオ創出フェーズ」への応募を行った。第 14 回横幹連合コンファレンスでは、企画セッション「SDGs に資する村づくりプロジェクトにおける地域コミュニティの形成に基づく課題解決アプローチ」を企画・実施した。「横幹知で推進する DX 調査研究会」主査：山本修一郎氏（名古屋国際工科専門職大学）では、複雑で多様化している人間・社会の諸問題の解決をゴールとした Society5.0、SDGs が提唱されている中、DX（デジタル技術が人間の生活のあらゆる側面に引き起こす、あるいは影響を与える変化）が注目されており、どんな変化が起こりえるか、人間の生活に望ましい姿は何か、デジタル技術の進化仮説の立案とその帰結の探索に加えて、デジタル技術の進展が知にどのような影響をもたらすか、共創の姿はどのような形に変貌を遂げるのか、など横幹連合として取り組むことを行った。第 14 回横幹連合コンファレンスでは、企画セッション「横幹知で推進する領域融合の DX にむけて」を実施した。また、SICE の計測制御システムの安心・安全を考える会と横幹連合 DX 調査研究会との合同研究会を開催した。さらに、11 月に発足した「TD (Transdisciplinary) 概念とその研究評価システムに関する調査研究会」では、学術研究における TD (Transdisciplinary) 概念を明確に

し、文理に跨がり、他学術領域に長期的に影響を与え得る研究業績等を如何に評価するかについての新たな方法論と、これら TD 型研究の評価システムを提唱し、実装に繋がる活動を計画することを目的とし活動を開始した。第 14 回横幹連合コンファレンスでは、企画セッション「TD 概念の明確化とその研究評価システム」を実施した。

横幹技術協議会とは、第 60 回横幹技術フォーラムを共催した。

一方で、今年度は「日本システム・ダイナミクス学会」からの入会があり、年度末での会員数は、総計 33 学会となった。新規会員の勧誘活動は今後も継続することとした。

防災・減災を学協会で連携して推進する一般社団法人防災学術連携体に引き続き参画し、関連シンポジウムに参画した。

財政面では、コンファレンス・会誌等の事業努力により、前年度並みの成果を得たが、引き続き厳しい状況であるので、より一層の努力が必要である。

- (1) 第 14 回横幹連合コンファレンスの開催
- (2) 第 15 回横幹連合コンファレンスの準備 (2024 年 12 月 14 日(土)、15 日(日)、東京工業大学大岡山キャンパス (東京都目黒区) にて開催予定)
- (3) 2023 年度木村賞の選定
- (4) コトづくりコレクションの選定
- (5) 一般社団法人防災学術連携体の 2023 年度総会に出席するとともに審議内容を委員会で情報共有したほか、シンポジウムへの参加を通じて連携を継続した。
- (6) 関連機関との連携
  - ・横幹技術フォーラムの開催：(第 60 回)
- (7) 会誌「横幹」の刊行：第 17 巻第 1 号 (2023 年 4 月)、第 17 巻第 2 号 (2023 年 10 月)、第 17 巻第 3 号(20 周年記念特集号) (2024 年 3 月) を発行した。J-STAGE にて公開中。
- (8) 横幹連合ニュースレター：No.73~No.76 を発行し、会員学会に周知した。
- (9) 一般社団法人システムイノベーションセンターから第 14 回横幹連合コンファレンスの後援をいただくとともに会員にもご参加いただき、連携を継続した。

#### [2] 第 14 回横幹連合コンファレンスの開催

- ・実行委員長：青山和浩氏 (東京大学)
- ・プログラム委員長：西野成昭氏 (東京大学)
- ・日程：2023 年 12 月 16 日(土)・17 日(日)
- ・会場：東京大学工学部 3 号館を拠点とするハイブリッド開催 (東京都新宿区)
- ・メインテーマ：対立・矛盾を克服する横幹知イノベーション：領域融合のトランスフォーメーションを目指して
- ・特別講演 1 件、プレナリー講演 1 件、特別企画 1 件を実施、学術講演としては 5 パラレル 19 セッションと 1 ポスターセッションを設けて総計 111 件の発表を得た。2 日間で 180 名の参加があった。
- ・ベストポスター賞を下記に決定した(○印は受賞者)。
  - PS-06 黒曜石流通ネットワークが石器のイノベーション創出に与える影響
  - 鈴木 丈墨(東京理科大学)、大江 秋津(東京理科大学)
- ・横幹連合会誌「横幹」18 巻 1 号 (2024 年 4 月発行) にて、開催報告を掲載する。

#### [3] 第 15 回横幹連合コンファレンスの準備

- ・日程：2024 年 12 月 14 日(土)・15 日(日)
- ・会場：東京工業大学大岡山キャンパス (東京都目黒区)
- ・メインテーマ：多分野連携研究と横断型人材育成
- ・コンファレンス実行委員長：猪原健弘 (東工大リベラルアーツ研究教育院)
- ・プログラム委員長：畑中健志 (東工大工学院システム制御系)

#### [4] 2023 年度木村賞表彰

第 14 回横幹連合コンファレンスでの発表講演から次の 1 件を 2024 年度定時総会にて表彰することとした。

- ・受賞者：横川 慎二（電気通信大学）  
受賞論文：「感染症予防難易度の高い社会福祉施設の空気質管理」

#### [5] コトづくり至宝認定事業の推進

横幹連合傘下の会員学会およびその個人会員・賛助会員が保有する「コトづくり」の指針となる事例を、一定のルールで取り上げ、横幹「コトづくり至宝」として顕彰する取組みの具体化として、「コトづくり至宝」となる候補を「コトづくりコレクション」として、今年度は1件選定した。

#### [6] 会員学会、横幹協議会と連携した活動

- ・横幹技術フォーラムの開催

第60回「横幹技術シーズの社会実装化に向けた産学連携活動の新たな展開＝ビジネスの視点から捉えた産学連携マッチングの現状と課題＝」

日時：2023年8月1日（火）15:00～17:30

#### [7] 会誌「横幹」の電子ジャーナル化

会誌「横幹」を、バックナンバーを含めて電子ジャーナルとしてJ-STAGEから公開中。オープンアクセスの流れを受けて、バックナンバーを含めて「横幹」第1巻1号からクリエイティブ・コモンズ：CCライセンスCC-BY-NCを適用している。

#### [8] 一般社団法人システムイノベーションセンターとの連携強化

第14回横幹連合コンファレンスの後援をいただくとともに会員にもご参加いただいた。

#### [9] 20周年記念事業の実施

横幹連合は2023年に創立20周年を迎えた。鈴木久敏元会長を委員長とする実行委員会を発足させ、下記の事業を20周年事業として実施した。

##### (1) 創立20周年記念式典

日時：2023年6月13日(火) 15:00～18:00

場所：東京大学山上会館

- ・特別講演：「科学と社会 -Interdisciplinary を超えて Transdisciplinary へ-」

小谷元子氏(東北大学 理事・副学長、科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム 運営統括)

- ・歴代会長を含むパネル討論会

パネラー：吉川弘之氏(初代会長、メッセージ)、木村英紀氏(第二代会長)、  
出口光一郎氏(第三代会長)、鈴木久敏氏(第四代会長)、  
北川源四郎氏(第五代会長)、遠藤 薫氏(元副会長)、  
小谷元子氏(記念式典特別講演講師)

モデレーター：安岡善文(横幹連合現会長)

##### (2) 創立20周年記念特集号の発行

会誌「横幹」第17巻第3号（2024年3月発行）

#### (B) 2024（令和6）年度事業計画案

##### [1] 2024（令和6）年度の方針

2024年度においては、「新横幹図」に組み込まれた横幹科学技術の社会への実装に向けたさらなる活動の推進を行うとともに、経済産業省や経済産業省事業に関与する学協会と協力して、文理の知の統合が必要な新たな国際標準化に関わる啓発事業や調査研究事業を実施する。

また、前年度に引き続き、「横幹」の発刊、横幹連合コンファレンスの開催等を通じて、単独の学会では対応が難しい社会的課題に対する研究プロジェクトに取組んで、横幹科学技術の社会への実装、貢献と学術の深化に努める。これらの活動を通じて、新規会員の獲得に努めるとともに、会員相互の連携を強化する活動を実施する。さらに、ここ何年間か獲得できていない外部委託研究費等による活動の活性化を図る。

具体的には以下の事項を推進する。

##### (1) 経済産業省「標準化とアカデミア」事業への協力

- 1) 新たな国際標準化への協力(国際標準化を支えるアカデミア人材育成は、別事業として大学が推進予定)
- 2) 国際標準化事業のアカデミアへの啓発に応える産学連携事業の企画
- 3) 経産省・経産省関連団体・国際標準化議長経験者等と協力して調査研究会の立ち上げ
- 4) 産学協同のワークショップあるいは横幹連合コンファレンスのセッションなどの企画

## (2) 調査研究事業

「多価値相克状況における合意形成のための動的参照モデル調査研究会」主査：遠藤 薫氏（学習院大学）では、「横断型基幹科学技術知（横幹知）」の立場から、現在進行中のコロナ・パンデミックを自然実験と捉え、その多面的な動態を分析し、ウィズコロナ社会の問題解決に資する理論枠組みの構築、基礎データの収集、社会意識調査、データサイエンスによる目標の指標化、シミュレーションによる検証を備えて、ELSIに資する多様なステークホルダーの熟議の場の構築研究を企画調査する。「SDGsに資する産官学プロジェクト形成調査研究会」主査：椿 美智子氏（東京理科大学）では、横幹思考が必要なSDGs目標を明確にし、SDGs指標間のトレードオフなどの考察に必要となる知の統合と産官との連携が明確となるプロジェクトを開始し、SDGsに効果的に対処するモデルプロジェクトの実現を目指す。「横幹知で推進するDX調査研究会」では、前年度に引き続いて変革するための技術としてのアーキテクチャをベースとするDXと、変革された結果としてのさまざまなDXを総合してあつかう横幹知・総合知を構築する活動を継続する。

「TD (Transdisciplinary) 概念とその研究評価システムに関する調査研究会」では、学術研究におけるTD概念を明確にし、文理に跨がり、他学術領域に長期的に影響を与え得る研究業績等を如何に評価するかについての新たな方法論と、これらTD型研究の評価システムを提唱し、実装に繋がる活動を計画する。

## (3) プロジェクト事業

社会的課題に関する国家プロジェクト（例えば SDGs や Society5.0）等への積極的参画、産業界の横幹的課題解決のための産学連携プロジェクトを推進する。具体的には、JST/RISTEX 等の機関と連携し、横幹連合の核となる考えである TD 研究 (Transdisciplinary Research) の推進方策を検討する。

## (4) 横幹会議

産官学とのトップ会談の場である横幹会議を開催し、その成果を会員学会にフィードバックすると共に、会員学会同士の連携協力へ橋渡しする。

## (5) 普及啓発事業

会誌「横幹」の電子ジャーナル発行体制の強化に努め、会員学会の会員をはじめ広いサーキュレーションを得て、横幹科学技術の学術面での普及啓発を図る。また、社会的課題の横幹技術による解決をテーマにした横幹技術フォーラムの開催を行う。

新たに「知の挑戦」と題し、横幹連合傘下の各学会でのイノベーションに関しての、基本的な研究、さまざまな先端を行く研究、社会に貢献する研究、オリジナリティーある研究を紹介する出版を実施する。

## (6) 広報事業

ホームページ、ニュースレター等による広報を行う。会員学会会員とのコンタクトの強化に努めると同時に、新しい広報手段の開拓を含め、会員学会活動の企業への情報提供の場づくりにも努力する。

## (7) 横幹コトづくり至宝認定事業

コトづくり概念の明確化を検討すると共に、横幹連合参画学会代表者と共にコトづくり至宝事業を推進し、1件の選定を目指す。

## (8) その他

持続可能な事業体制への転換を目指す。具体的には、各種委員会における活動を見直し、その活動を持続可能な発展に繋げるための方策を検討する。

2024 (令和6) 年度横幹連合事業計画

事業名	事業内容	実施 予定 日時	受益対象者 の範囲及び 予定人数
調査研究・企画事業 (1)	<p>&lt;横幹科学技術の社会実装に向けた行動展開&gt; SDGs、ELSI、DX や TD などの科学技術を社会に繋ぐための科学技術の方法論を展開するとともに、社会との実践的連携を図る。</p>	通年	学・産・官
調査研究・企画事業 (2)	<p>&lt;第15回横幹連合コンファレンス&gt; 学界・産業界から広く参加を募り、横幹理念の実践を目指して、社会の発展と文化の深化をもたらす知の統合に係る広い分野の知の交流をはかる。</p>	12月	学界・産業界から 広く参加を募る (180名)
調査研究・企画事業 (3)	<p>&lt;防災学術に関する横幹連合の取組み&gt; 一般社団法人防災学術連携体に加加盟している学協会と連携し、国民の関心が高い防災・減災への取組みを進め、横幹科学技術を通して国土強靱化や安心安全社会の建設に貢献する。</p>	通年	会員学会・ 防災学術連携体を中心とした学界
調査研究・企画事業 (4)	<p>&lt;調査研究会&gt; 横幹的アプローチを必要とする社会的な課題や産業界の課題を取り上げ、複数分野の専門家によるチームを結成し、調査研究を行う。成果は報告書・横幹連合コンファレンス等で一般に公表し、場合によっては、プロジェクト事業へと展開する。</p>	通年	会員学会を中心とした学界
調査研究・企画事業 (5)	<p>&lt;横幹会議の定着と会員学会へのフィードバック&gt; 産官学とのトップ会談の場である横幹会議を定着させ、その成果を会員学会にフィードバックすると共に、会員学会同士の連携協力へ橋渡しする。</p>	通年	学・官・産
調査研究・企画事業 (6)	<p>&lt;国際標準化事業への協力&gt; ISO/IECなどで近年進んでいる社会課題解決に関わる標準化作業には文理を超えた統合知が必要とされている。その種の横断的な標準化についての情報提供を経産省から受けると共に、国際標準化対応に必要な学会間連携などを企画する。</p>	通年	学・官・産
プロジェクト事業 (1)	<p>&lt;社会プロジェクト活動&gt; JST 等の社会的課題や挑戦的研究開発に関する国家プロジェクト等の受託・推進・連携を検討し、横幹科学技術の有用性を立証するとともに、今後の取組み課題を抽出する。</p>	通年	会員学会を中心とした学界
プロジェクト事業 (2)	<p>&lt;産業プロジェクト活動：インキュベーションとプロジェクト化&gt; 横幹産学懇談会を通じて、知の統合による産学連携の実現を目指して「オープンイノベーションを通じた産学の対話の場」をテーマに産業界との緩やかな対話を継続して行い、産業界が求める「実問題」に応える横幹科学技術を明らかにし、解決活動への結び付けを行う。また、横幹技術協議会と産業の芽となる共同開発の可能性を模索する。</p>	通年	産・学
普及啓発事業 (1)	<p>&lt;会誌「横幹」第18巻1、2号の発行&gt; 横幹科学技術を様々な角度から掘下げ、多分野からの理解を深める会誌を刊行する。</p>	4月 10月	一般者
普及啓発事業 (2)	<p>&lt;横幹技術フォーラムの開催&gt; 産業界との連携強化を図るためのパイプ役として、横幹技術協議会との連携による横幹技術フォーラムの定期開催を行う。</p>	2回	産業界の中核技術者

広報事業 (1)	<p style="text-align: center;">＜ホームページ＞</p> <p>ホームページを管理運営し、横幹科学技術の解説、イベントの案内、技術討論、会員学会との交流などを行う。企業に向けての会員学会の横断的な情報提供の場づくりに努力する。</p>	通年	会員学会・ 一般者
広報事業 (2)	<p style="text-align: center;">＜パンフレット・ニュースレター等による広報＞</p> <p>横幹連合の活動、横幹連合会員学会の活動の紹介、各種イベントの周知・広報等を行う。会員学会会員とのコンタクト強化に努める。新たな横幹図を含めたパンフレットの改訂を行う。</p>	通年	学界・ 会員学会・ 一般者
出版事業	<p style="text-align: center;">＜「知の挑戦」シリーズの刊行＞</p> <p>新たに「知の挑戦」シリーズとして、横幹連合傘下の各学会でのイノベーション研究を取り上げ刊行する。</p>	通年	学生・産業 界の中核技 術者・会員 学会
表彰事業 (1)	<p style="text-align: center;">＜木村賞の審査と表彰＞</p> <p>横幹連合コンファレンスでの発表講演の中から、横幹的アプローチがなされた優れた研究を選定し、最優秀発表講演 1～2 件を表彰する。表彰式は翌年度の定時総会に合わせて実施する。</p>	10～ 12月	コンファ レンス講演者
表彰事業 (2)	<p style="text-align: center;">＜横幹コトづくり至宝認定事業＞</p> <p>主に会員学会を対象に、コトづくりと言える活動や催事の事例を収集する。その後、至宝と呼ぶに相応しい活動や催事を横幹コトづくり至宝として認定し、表彰する。本年度はコトづくり概念の明確化を検討すると共に、横幹連合参画学会代表者と共にコトづくり至宝事業を推進し、1 件の選定を目指す。</p>	隔月	会員学会 ・ 大学教員
その他 (1)	<p style="text-align: center;">＜事業運営の体質強化・転換＞</p> <p>文系学会へのアプローチを強化し、会員学会の増強に努める。財務状況の適切な改善策を立案し、持続可能な事業体制の強化を目指す。このために、受益者に関する見直しを行い、新たな社会との関係づくりを構想する。事務の効率化、経費削減に努める。</p>	通年	会員学会・ 横幹連合 支援者

## 3-2 常置委員会 2023 年度事業報告・2024 年度事業計画

### 3-2-1 企画・事業委員会

#### (A) 2023 年度の事業報告

委員長 (副会長)	椿 広計	(統計数理研究所、日本品質管理学会)
副委員長(理事)	川中 孝章	(東京大学、日本経営システム学会)
副委員長(理事)	山上 伸	(公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会、 日本オペレーションズ・リサーチ学会)
委員 (理事)	青山 和浩	(東京大学、計測自動制御学会)
委員 (理事)	林 勲	(関西大学、日本知能情報ファジィ学会)
委員 (理事)	藤井 享	(北見工業大学、国際戦略経営研究学会)
委員	安藤英由樹	(大阪芸術大学、日本バーチャルリアリティ学会)
委員	板倉 宏昭	(東京都立産業技術大学院大学、日本経営システム学会)
委員	遠藤 薫	(学習院大学、社会情報学会)
委員	倉橋 節也	(筑波大学、計測自動制御学会)
委員	土谷 隆	(政策科学大学院大学、日本統計学会)
委員	藤本 英雄	(名古屋工業大学、日本ロボット学会)
委員	舩橋 誠壽	(計測自動制御学会)
委員	三上 喜貴	(開志専門職大学、日本 MOT 学会)
委員	山中 隆敏	(一般社団法人日本開発工学会、日本開発工学会)
委員	山本修一郎	(名古屋国際工科専門職大学、日本 MOT 学会)
顧問 (監事)	本多 敏	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)

#### 1. 委員会開催

4 回(注: 2024/03/08 時点)の委員会をネット並びに持ちまわり開催し、継続課題としてのコトつくり至宝認定事業の推進、新規研究会の立ち上げ計画、20 周年記念式典の企画などを支援した。

#### 2. 横幹連合コトつくり至宝発掘事業の推進

コトつくり至宝登録事業 WG は、「コトつくりコレクション」への収集案件を、第 13 回横幹連合コンファレンス等を通じて発掘した。2023 年度の「コトつくりコレクション」への収集した案件は、QR コードの 1 件であり、また、2023 年度までに至宝選出プロセスの検討を開始すべき目標の 15 件にコレクションが達した。これに伴い至宝選出プロセスに必要な手続きを整備すると共に、第 13 回横幹連合コンファレンスにおいて、これまで至宝登録事業に積極的に参画した日本統計学会樋口知之前会長、日本品質管理学会永田靖前会長、日本リモートセンシング学会伊藤明彦氏、横幹連合安岡善文会長、コトつくり至宝登録事業立ち上げに尽力した WG メンバーの六川修一元理事からなる特別企画、「コトつくり至宝特別セッション」を実施した。コトつくりのコンセプトを再確認すると共に、至宝コレクション選出に向けた活動の方向性を議論した。

#### 3. 20 周年記念式典の企画・実施

総務・会員委員会の支援の下、2023 年 6 月 13 日午後に行われた創立 20 周年記念式典の企画・運営を実施した。20 周年記念事業実行委員会の下で、来賓祝辞、小谷元子氏による特別講演、歴代会長によるパネル討論、懇親会の企画・運営に当たった。

#### 4. 新規研究事業の企画

安岡善文会長の意向を受けて、新規調査研究会として「TD 概念とその研究評価システムに関する調査研究会」立ち上げを支援し、学術国際委員会に提案した。

経済産業省の「標準化とアカデミアとの連携に関する検討会」に横幹連合の参画依頼があった。3 回の検討会の座長も務めた。この活動をうけて、産学連携委員会と共に文理の知の統合を必要とする新たなタイプの国際標準化活動を検討する調査研究会や産学連携シンポジウムの企画についての検討を開始した。

## 5. 科学技術イノベーション基本計画の総合知に関する議論

官への積極的働きかけ活動はできなかったが、横幹連合 20 周年記念式典において、総合知を推進する内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長の松尾泰樹氏より、総合知推進と横幹連合の役割に関する祝辞を頂戴した。

新横幹図の制定をうけて、「総合知」に対する横幹連合の取り組みとして重要な、ロードマップ「知の統合学; 価値共創するレジリエントな進化型社会を実現する横幹科学技術」を人間の経済活動や文化活動の急激な変化や重大な価値相克が生じている現代を見据え、その改訂の方向性を議論し、文章部分についてその試案を作成し、役員などに意見を求めた。

### (B) 2024 年度の事業計画

#### 1. 企画・事業委員会開催

四半期に一度程度の開催を目途に委員会活動、関連常置委員会との連携の下に継続課題の推進、新規事業企画事項を発掘する。

#### 2. 継続課題の推進

- ・コトづくりコレクション登録事業とコトづくり至宝選定事業の推進  
引き続き横幹連合参画学会からコトづくりコレクションの推薦を受け、横幹連合コンファレンスでの推薦発表・審査・登録を実施する。コトづくり概念の明確化を検討すると共に、横幹連合参画学会代表者と共にコトづくり至宝選定事業を推進し、1 件の選定を目指す。
- ・横断型技術推進協議会並びに（一社）システム・イノベーション・センター（SIC）とが推進する産学連携事業を企画の立場から支援する。
- ・調査研究会活動や産官学研究プロジェクトの企画と立ち上げ支援を行い、必要に応じて横幹連合コンファレンスの関連企画セッション立ち上げをサポートする。
- ・2022 年度に開始した総務省 SDGs 指標検証への横幹連合からの専門家派遣を継続する。
- ・アカデミック・ロードマップの改訂作業  
2023 年度に検討を開始し、策定したアカデミック・ロードマップ改訂案の審議をすすめる。

#### 3. 新規課題の企画と推進

- ・国際標準化に対して文理の知の統合が必要な分野への協力  
経済産業省「標準化とアカデミア」事業から 2023 年度に横幹連合に協力要請に系統的に対応すべく事業企画を行う。特に、新たな国際標準化への協力・国際標準化を支えるアカデミア人材育成、国際標準化事業のアカデミアへの啓発に応える産学連携事業を企画する。このため、経産省・経産省関連団体・国際標準化議長経験者等と協力して調査研究会立ち上げ企画を行う。特に、ISO/IEC などで近年進んでいる社会課題解決に関わる標準化作業には文理を超えた統合知が必要とされている。その種の横断的な標準化についての情報提供を経産省から受けると共に、国際標準化対応に必要な学会間連携などを企画する。特に産学連携委員会等と共同して産学協同のワークショップあるいは横幹連合コンファレンスのセッションなども企画する。必要に応じて、本活動の支援の外部資金確保などについての可能性も交渉する。

## 3-2-2 総務・会員委員会

### (A) 2023 年度の事業報告

委員長（理事）	早川 有	（早稲田大学、日本信頼性学会）
副委員長（理事）	佐藤 一弘	（東洋製罐グループホールディングス(株)、日本開発工学会）
副委員長（理事）	田中 敏幸	（慶應義塾大学、計測自動制御学会）
委員（理事）	猪原 健弘	（東京工業大学、社会情報学会）
委員（副会長）	藤田 政之	（東京大学大学院、計測自動制御学会）
委員	木村 忠正	（電気通信大学、日本信頼性学会）
委員	高橋 泰城	（北海道大学、行動経済学会）
委員	舩橋 誠壽	（計測自動制御学会）

顧問 (監事) 本多 敏 (慶應義塾大学、計測自動制御学会)  
顧問 (監事) 川崎 茂 (滋賀大学、日本統計学会)

本委員会は、事務局管理、財務処理、会員学会との連携強化を使命とする。

#### 1. 総務・会員委員会の開催

7回の委員会を開催し、事務局の管理、会員学会との連携強化、20周年記念式典準備、会長懇談会の進め方について議論した。

#### 2. 事務局の管理

事務局長の嘱託業務契約が、2023年12月31日をもって満了のため、契約期間を1年から3か月延長して、2024年1月1日より2025年3月31日まで、同条件で契約を更新した。

編集・総務担当の事務局員の労働契約が2024年3月31日をもって満了のため、2024年4月1日より2025年3月31日まで契約を更新した。

#### 3. 会長懇談会の実施と会員学会の連携強化

2023年度第14回横幹連合コンファレンス(2023年12月16日(土)、17日(日))において会長懇談会をハイブリッド形式で開催し、会長懇談会のプログラムの作成と司会進行を行った。

会長懇談会には、会員学会から21名(うち横幹連合役員4名)、役員出席21名の合計38名の出席を得て、横幹連合の最近の活動状況、コトづくり至宝の選出方法、第15回横幹連合コンファレンスの紹介、Transdisciplinary (TD) 研究についての説明、またそれに基づいた意見交換を行った。

#### 4. 20周年記念式典

20周年記念事業拡大準備委員会および実行委員会に参加し、20周年記念式典の準備および当日の運営に携わった。

#### 5. 新規会員勧誘

日本システム・ダイナミクス学会の入会が承認された。勧誘活動は今後も継続することとした。

#### 6. 2023年度総会の運営を行った。

#### 7. 事務局、理事会が主担当となり、本委員会が協力した事項

木村賞審査委員会の幹事・委員を務めた。

次期役員候補者推薦委員会の委員長を務めた。

#### (B) 2024年度の事業計画

##### 1. 予算健全化策の立案と推進

予算健全化のために、引き続き具体的な施策立案と推進に注力する。この一環として、産学連携委員会との連携により、企業へのアプローチを進める。また、これまでの収支データの分析を行い、改善策を検討する。

##### 2. 会長懇談会および定時総会の運営・企画

第15回横幹連合コンファレンス時に開催する会長懇談会の内容を企画する。会長懇談会および定時総会がハイブリッド開催できるよう対応する。

##### 3. 新規会員勧誘ならびに会員学会の連携強化

第15回横幹連合コンファレンスにて、企画・事業委員会と連携し、新規会員学会勧誘につながる企画を立案・実施するとともに、会員学会が連携して企画セッションを実施することをサポートする。

### 3-2-3 学術・国際委員会

#### (A) 2023年度の事業報告

委員長 (副会長)	藤田 政之	(東京大学大学院、計測自動制御学会)
副委員長(理事)	大江 秋津	(東京理科大学、経営情報学会)
副委員長(理事)	早川 有	(早稲田大学、日本信頼性学会)
委員 (理事)	青山 和浩	(東京大学、計測自動制御学会)
委員 (理事)	伊東 明彦	((株)ツクリエ、日本リモートセンシング学会)
委員 (理事)	伊藤 誠	(筑波大学、日本品質管理学会)
委員 (理事)	猪原 健弘	(東京工業大学、社会情報学会)
委員 (理事)	下野 僚子	(早稲田大学、日本品質管理学会)
委員 (副会長)	椿 広計	(統計数理研究所、日本品質管理学会)
委員 (理事)	吉見 卓	(芝浦工業大学、日本ロボット学会)
委員	遠藤 薫	(学習院大学、社会情報学会)
委員	大石 潔	(長岡技術科学大学、(第10回横幹連合コンファレンス実行委員長))
委員	大塚 敏之	(京都大学、システム制御情報学会)
委員	鎌倉 稔成	(中央大学、日本統計学会)
委員	木村 忠正	(電気通信大学、日本信頼性学会)
委員	倉橋 節也	(筑波大学、計測自動制御学会)
委員	高橋 大志	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員	田名部元成	(横浜国立大学、経営情報学会・日本シミュレーション&ゲーミング学会)
委員	椿 美智子	(東京理科大学、研究・イノベーション学会)
委員	西村 秀和	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員	ベントン・キャロライン	(筑波大学、国際戦略経営研究学会)
委員	長谷川恭子	(立命館大学、日本シミュレーション学会)
委員	舩橋 誠壽	(計測自動制御学会)
委員	松井 正之	(神奈川大学工学研究所客員研究員、日本経営工学会)
委員	三浦 伸也	(防災科学技術研究所、社会情報学会)
委員	三上 喜貴	(開志専門職大学、日本MOT学会)
委員	出口光一郎	(東北大学、計測自動制御学会)

本委員会の使命として、横断型基幹科学技術の推進に係る基本的な枠組み作りならびに実践を行い、横幹連合コンファレンスや調査研究会への展開を計ると共に、社会課題への取組みを試行するため、以下の活動を行った。

#### 1. 学術・国際委員会の開催

11回の委員会を開催し、関係各位との協力のもと、現地開催を含むハイブリッド開催となる第14回横幹コンファレンスの開催支援、ならびに同じくハイブリッド開催を前提とした第15回横幹コンファレンスの計画立案を、それぞれ実行委員会との合同委員会開催などにより行った。

#### 2. 第14回横幹連合コンファレンスの実行委員会設置ならびに開催支援

実行委員長を青山和浩氏(東京大学)、プログラム実行委員長を西野成昭氏(東京大学)にお務めいただき、2023年12月16日(土)、17日(日)に東京大学本郷キャンパス(東京都文京区)においてハイブリッドで開催した。横幹連合コンファレンス二度目となるハイブリッド開催準備のため、実行委員会、プログラム委員会と合同で、開催会場となる東京大学の視察を行った。コンファレンスでは、「対立・矛盾を克服する横幹知イノベーション：領域融合のトランスフォーメーションを目指して」を大会テーマとし、18企画セッションで85件、一般セッションで5件、ポスターセッションで21件の発表を得て、参加者は2日間で合計180名が参加され、そのうち29名がオンライン参加で、残る大部分の151名が対面での参加となりました。初日は、東京大学の松尾 豊氏による「領域融合の実現へ向けた人工知能の可能性」と題したプレナリー講演、二日目は東京大学執行役・副学長の森山 工氏による「東京大学における領域融合の試みとUTokyo Compass」と題した

特別講演を実施した。さらに、特別企画として、「コトづくり至宝特別セッション」が2日目の午後に企画され、各学会から参加した代表者が、当該学会において考える「コトづくり」とは何かについて発表され、その後パネルトークとして活発な議論が行われた。

### 3. 第15回横幹連合コンファレンスの実行委員会設置ならびに計画支援

2024年度のコンファレンス実行委員長を猪原健弘氏（東京工業大学）、プログラム委員長を畑中健志氏（東京工業大学）に務めていただき、実行委員会、プログラム委員会を設置し、合同委員会などを経てハイブリッド開催を前提とした実施計画を立案した。

- ・日程：2024年12月14日(土)、15日(日)
- ・場所：東京工業大学 大岡山キャンパス
- ・大会テーマ：多分野連携研究と横断型人材育成

### 4. 調査研究会の活動支援

通算20テーマ目になる調査研究会、「多価値相克状況における合意形成のための動的参照モデル調査研究会（主査：遠藤 薫氏（学習院大学）、期間：2020年9月～2026年3月）」、21テーマ目になる規調査研究会、「SDGsに資する産官学プロジェクト形成調査研究会（主査：椿 美智子氏（東京理科大学）、期間：2021年11月～2025年10月）」、そして22テーマ目になる新規調査研究会、「横幹知で推進するDX調査研究会（主査：山本修一郎氏（名古屋国際工科専門職大学）、期間：2022年4月～2026年3月）」の継続延長を行った。

あわせて、23テーマ目になる新規調査研究会、「TD（Transdisciplinary）概念とその研究評価システムに関する調査研究会（主査：安岡善文氏（東京大学名誉教授）、期間：2023年11月～2025年5月）」を立ち上げ、学術研究におけるTD（Transdisciplinary）の概念を明確にし、文理に跨り他学術領域に影響を与える研究の評価についての新たな方法論と評価システムの提唱について調査研究を開始した。

### 5. 一般社団法人システムイノベーションセンター（SIC）との連携

第14回横幹連合コンファレンスの後援をいただくとともに会員にもご参加いただいた。

### 6. 一般社団法人防災学術連携体での活動

（一社）防災学術連携体2023年度総会に出席するとともに審議内容を委員会で情報共有したほか、シンポジウムへの参加を通じて連携を継続した。

### 7. 後援・協賛・共催などの審査

関連学会との連携を強化するため、本年度は3件の後援などの審査を行った。

#### （B）2024年度の事業計画

以下を行う。

#### 1. 第15回横幹連合コンファレンス

- ・開催支援ならびに特別企画提案

2024年12月14日(土)、15日(日)に東京工業大学大岡山キャンパスで開催予定の第15回横幹連合コンファレンスへの開催支援を継続して行うと共に、実行委員会などとの連携により特別企画を立案する。

#### 2. 第16回横幹連合コンファレンス

- ・実行委員会の設置ならびに実行計画立案

2025年開催の第16回横幹連合コンファレンスの共催大学を決定し、実行委員会を設置すると共に、実行計画を立案する。

#### 3. 調査研究会

- ・既存調査研究会の継続ならびに新規調査研究会の立上げ

前年度に延長ならびに新規開始した「SDGsに資する産官学プロジェクト形成調査研究会（主査：椿 美智子氏（東京理科大学）、期間：2023年11月～2025年10月）」、「多価値相克状況における合意形成のための動的参照モデル調査研究会（主査：遠藤 薫氏（学習院大学）、期間：2024年4月～2026年3月）」、「横幹知で推進するDX調査研究会（主査：山本修一郎氏（名古屋国際工科専門職大学）、期間：2024年4月～2026年3月）」の継続延長を行った。

月)、「TD (Transdisciplinary) 概念とその研究評価システムに関する調査研究会 (主査: 安岡善文氏 (東京大学名誉教授)、期間: 2023 年 11 月~2025 年 5 月))」を継続させるとともに、併せて新規調査研究会の立ち上げに努める。

4. 一般社団法人システムイノベーションセンターとの連携継続

- ・相互の後援ならびに必要なに応じて共催企画を立案する。

5. 一般社団法人防災学術連携体での活動推進

- ・シンポジウムへの参加を通じて連携を継続する。

6. 後援・協賛・共催などの審査

- ・関連学会との連携強化のため後援・協賛・共催の審査を行う。

7. その他

- ・横断型基幹科学技術の推進に係る基本的な枠組み作りや実践のための検討を継続する。

### 3-2-4 産学連携委員会

(A) 2023 年度の事業報告

委員長 (理事)	藤井 享	(北見工業大学、国際戦略経営研究学会)
副委員長(理事)	伊東 明彦	((株)ツクリエ、日本リモートセンシング学会)
副委員長(理事)	伊藤 敦	(京都府立大学、日本情報経営学会)
委員 (理事)	大江 秋津	(東京理科大学、経営情報学会)
委員 (理事)	川中 孝章	(東京大学、日本経営システム学会)
委員 (理事)	佐藤 一弘	(東洋製罐グループホールディングス(株)、日本開発工学会)
委員 (理事)	田中 敏幸	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員 (理事)	林 勲	(関西大学、日本知能情報フェジィ学会)
委員 (理事)	林 聖子	(亜細亜大学、研究・イノベーション学会)
委員 (理事)	皆川健多郎	(大阪工業大学、日本経営工学会)
委員 (理事)	山上 伸	(公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会、 日本オペレーションズ・リサーチ学会)
委員 (理事)	吉見 卓	(芝浦工業大学、日本ロボット学会)
委員	青木 洋貴	(東京工業大学、日本人間工学会)
委員	赤津 雅晴	((株)日立システムズ、横幹技術協議会)
委員	飯島 俊文	(Q&T マネジメント研究所、日本経営工学会)
委員	板倉 宏昭	(東京都立産業技術大学院大学、日本経営システム学会)
委員	梅田 豊裕	((株)神戸製鋼所、システム制御情報学会)
委員	大場 允晶	(神奈川大学、日本経営工学会)
委員	影山 正幸	(名古屋市立大学、日本オペレーションズ・リサーチ学会)
委員	鎌倉 稔成	(中央大学、日本統計学会)
委員	櫻井成一朗	(明治学院大学、社会情報学会)
委員	鮫嶋 茂稔	((株)日立製作所、計測自動制御学会)
委員	高橋 泰城	(北海道大学、行動経済学会)
委員	瀧川 淳	(エヴィクサー(株)、日本情報経営学会)
委員	田名部元成	(横浜国立大学、経営情報学会・日本シミュレーション&ゲーミング学会)
委員	椿 茂実	(T 共創企画、経営情報学会)
委員	椿 美智子	(東京理科大学、研究・イノベーション学会)
委員	西村 秀和	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員	船橋 誠壽	(計測自動制御学会)
委員	村上 存	(東京大学、日本デザイン学会)

近年、研究者・教員の業務負担が増えており、学会等の外部ネットワークでの産学連携活動が円滑に推進できないとの問題が多く、学会で話題になっている。このことを鑑みて、産学連携のあり方と、その推進方法について、委員会内で議論してきた。そこで出されたのは、産学連携を推進していく上で、コーディネーターの役割が大変重要である。また複数の横幹技術に跨った研究シーズを発掘して社会実装化するためには、専門的な知識や経験も必要であるが、個別の研究者からのアプローチだけでは、この活動に限界もあるという点である。以上の観点から、2023年度は、「横幹技術シーズの社会実装化に向けた産学連携活動の新たな展開＝ビジネスの視点から捉えた産学連携マッチングの現状と課題＝」をテーマとするフォーラムを開催し、民間企業や大学の産学連携部門での産学連携の取り組みの現状を解説いただき、産業界（企業）と横幹連合所属学会の研究者とのマッチングの可能性（課題）について検討を行った。

横幹技術協議会では、産学連携委員会の有志メンバーから構成される「横幹協議会・新体制創生WG」を結成し、現行の中核会員（年会費100万円）、一般会員（年会費20万円）に、「インキュベーション会員」（年会費10万円）を新たに設け、新規会員確保に向けた取り組みを推進中である。現在3社に入会いただき、8月1日にこれらの企業の代表者と横幹連合会長及び横幹技術協議会会長との会合を実施した。

横幹技術協議会との連携については、2023年5月25日の通常総会・実行委員会を実施した。

## 1. 産学連携委員会の開催

### 第1回産学連携委員会（実行委員会）

日時：2023年5月25日（木）10:30～12:00

場所：横幹技術協議会事務局を拠点とする Zoom を用いたハイブリッド開催

内容：2023年度 事業計画の具体的な進めについてディスカッション

### 第2回産学連携委員会

日時：2023年7月16日（日）

形式：メール審議

内容：(1)第60回横幹技術フォーラムの開催について  
(2)報告事項 )横幹技術協議会の議事録の確認

### 第3回産学連携委員会

日時：2023年8月17日（木）

形式：メール審議

内容：2023年度産学連携委員会組織について

## 2. 横幹技術フォーラムの開催

### 第60回横幹技術フォーラム

テーマ：「横幹技術シーズの社会実装化に向けた産学連携活動の新たな展開＝ビジネスの視点から捉えた産学連携マッチングの現状と課題＝」

日時：2023年8月1日（火）15:00～17:30

会場：横幹技術協議会事務局（東京・神田）を本部とする ZOOM 開催

内容：報告1「東北大学子会社の取り組み」 石川 健

（東北大学共創戦略センター特任教授/東北大学共創イニシアティブ株式会社代表取締役社長）

報告2「産学連携の中での特定研究成果活用事業の現状、社会課題解決に向けた取り組みについて」 川村 健太

（京都大学人と社会の未来研究院社会的共通資本と未来寄附研究部門特定准教授/京大オリジナル株式会社ソリューションデザイン部部長）

パネルディスカッション

パネラー：講演者全員、横幹連合 安岡会長      ファシリテーター：藤井 享

参加者：30名

## (B) 2024 年度の事業計画

### 1. 事業方針

会員学会及び、産業界との連携強化を図るためのパイプ役として、横幹技術協議会との連携による横幹技術フォーラムの定期開催を行う。また、横幹技術協議会「新規インキュベーション会員」制度の充実化と新規会員入会に向けた懇談会等を企画運営する。

### 2. 委員会開催

隔月で委員会を開催し、横幹技術フォーラムの企画立案と実施結果のフォロー、および、横幹技術協議会実行委員会と産業界の芽となる共同開発の可能性を模索していくための審議を行う。

### 3. 横幹技術フォーラムの開催推進

横幹技術協議会との連携による社会的課題の横幹技術による解決をテーマにした横幹技術フォーラムを企画・開催を行う。主に産業界を対象に、横幹科学技術の先端研究成果を第一線で活躍する研究者と産業界の実務者が話題提供する。また、オープンイノベーションを通じた産学の対話の場としても活用する。

第 61 回 テーマ：横幹連合 DX 調査研究会の活動に関する内容 時期：7 月～8 月予定（対面開催）

### 4. 「インキュベーション会員」入会への対応

新規に入会された「インキュベーション会員」を対象に共同研究内容の報告会・横幹技術フォーラムへの優先的な参加等検討していく。また、会員企業の代表者と横幹連合会長及び横幹技術協議会会長との懇親会を企画する。時期：7 月～8 月予定（対面開催）

## 3-2-5 広報・出版委員会

### (A) 2023 年度の事業報告

委員長（理事）	長沢 伸也	（早稲田大学、商品開発・管理学会）
副委員長（理事）	猪原 健弘	（東京工業大学、社会情報学会）
副委員長	長谷川恭子	（立命館大学、日本シミュレーション学会）
委員（理事）	皆川健多郎	（大阪工業大学、日本経営工学会）
委員（理事）	下野 僚子	（早稲田大学、日本品質管理学会）
委員（理事）	鷹羽 浄嗣	（立命館大学、システム制御情報学会）
委員（理事）	水田 正弘	（データサイエンス共同利用基盤施設／統計数理研究所、 応用統計学会、日本統計学会）
委員	青木 洋貴	（東京工業大学、日本人間工学会）
委員	倉橋 節也	（筑波大学、計測自動制御学会）
委員	小山 慎哉	（函館工業高等専門学校、日本バーチャルリアリティ学会）
委員	高橋 正人	（情報通信研究機構、計測自動制御学会）
委員	武田 博直	（VR コンサルタント、日本バーチャルリアリティ学会）
委員	村上 存	（東京大学、日本デザイン学会）

広報・出版委員会では、出版ならびに広報を通じた横幹連合の認知度の向上を主たる目的として活動を実施してきた。2023 年度の主な活動は以下のとおりである。

- ・ニュースレターの定期発行
  - No. 73 2023 年 5 月発行
  - No. 74 2023 年 8 月発行
  - No. 75 2023 年 11 月発行
  - No. 76 2024 年 2 月発行
- ・事務局から会員への情報発信
- ・会員主催のイベント等の紹介
- ・サーバおよびホームページの管理

・広報・出版委員会の開催

第1回 2023年6月26日(月) (メール開催)

議題：

- (1) 委員会の運営体制（副委員長の選任）について
- (2) 委員会業務について

第2回 2023年10月15日(日) (メール開催)

議題：

- (1) 出版計画について

第3回 2023年10月17日(火) (メール開催)

議題：

- (1) 出版計画について

第4回 2023年12月27日(水) (メール開催)

議題：

- (1) 出版計画について

第5回 2024年2月9日(金) (メール開催)

議題：

- (1) 出版計画について

第6回 2024年2月13日(火) (メール開催)

議題：

- (1) 2023年度活動の総括と2024年度活動計画について

第7回 2024年3月13日(水) (メール開催)

議題：

- (1) 2023年度活動の総括と2024年度活動計画について

(B) 2024年度の事業計画

横幹連合では、科学・技術を横断し困難な現代的課題に取り組むべく、多くの活動を行っている。様々な活動の開催情報、ならびに活動の中で示される新しい視点や価値観や成果について、適宜社会に提供することが重要であると理解をしている。広報・出版委員会では、今後ともウェブサイト、パンフレット、書籍発行を通じて、その役割を担っていききたい。2024年度については、主に以下の点について注力していききたいと考えている。

・広報活動の着実な実施

- (1) ニュースレターの定期的発行

年4回程度の発行をめざし、メール及びWebページでの公開を行っていく。

- (2) パンフレットの改訂

横幹をめぐる現代社会の状況に合致した内容となるように、パンフレット内容を精査し改訂を適宜行っていく。

- (3) 和文・英文ウェブサイトの管理体制の整備

ウェブサイトのリンク管理や更新のための管理体制を適宜整備していく。

- (4) 会員との関係を密にする施策について検討

会員主催のイベント等の紹介に漏れがないように、情報発信していく。

- (5) 「知の挑戦」シリーズ図書の刊行および次期出版の企画

『横幹「知の挑戦」シリーズ イノベーション』を確実に刊行する。また、次シリーズの発行に向けた計画を立案していく。

### 3-2-6 会誌編集委員会

#### (A) 2023年度の事業報告

委員長 (理事)	伊藤 誠	(筑波大学、日本品質管理学会)
副委員長(理事)	水田 正弘	(データサイエンス共同利用基盤施設/統計数理研究所、 応用統計学会、日本統計学会)
副委員長	倉橋 節也	(筑波大学、計測自動制御学会)
委員 (副会長)	椿 広計	(統計数理研究所、日本品質管理学会)
委員 (理事)	鷹羽 浄嗣	(立命館大学、システム制御情報学会)
委員 (理事)	林 聖子	(亜細亜大学、研究・イノベーション学会)
委員	青柳 秀紀	(筑波大学、日本生物工学会)
委員	穴太 克則	(芝浦工業大学、日本オペレーションズ・リサーチ学会)
委員	岩澤誠一郎	(名古屋商科大学、行動経済学会)
委員	大塚 敏之	(京都大学、システム制御情報学会)
委員	小平和一朗	(アーネスト育成財団、日本開発工学会)
委員	金子 勝一	(山梨学院大学、日本経営システム学会)
委員	櫻井成一朗	(明治学院大学、社会情報学会)
委員	玉置 久	(神戸大学、システム制御情報学会)
委員	椿 美智子	(東京理科大学、研究・イノベーション学会)
委員	出口光一郎	(東北大学、計測自動制御学会)
委員	水野 毅	(埼玉大学、計測自動制御学会)
委員	三宅 美博	(東京工業大学、計測自動制御学会)
委員	横山 清子	(名古屋市立大学、日本人間工学会)

横幹連合の理念の深耕と普及、横幹連合の活動記録及び会員学会分野における横幹的事例の紹介を中心に、会誌「横幹」の編集・発行を行っている。2023年度は、原著論文や論説、解説、研究会活動報告を含む多数の記事を掲載することができた。また、20周年記念事業としての特別号の編集を行った。

#### 1. 委員会開催

1回のウェブ会議を開催し、編集方針などについて議論をした。また、具体的な編集作業を行った。  
会誌編集委員会 第1回 2024年3月29日 (※2024年2月10日現在の予定)

#### 2. 2023年度発行の「横幹」の内容

17巻1号及び17巻2号を発行した。また、20周年記念特別号(17巻3号)を発行した。

#### ・会誌第17巻第1号(2023年4月発行)

巻頭言：	工学教育の150年	高木 真人
解説：	革新戦略に資する品質経営の追究 ～日本品質管理学会 サービスエクセレンス/生産革新部会の活動紹介～	新倉 健一、浅羽 登志也、築瀬 猛、伊藤 誠、 木内 正光、安井 清一、水流 聡子
論説：	檜原村村長インタビューの報告 －SDGsに資する産官学プロジェクト形成調査研究会活動の中で－	椿 美智子、木野 泰伸
論説：	SDGsに資する産官学プロジェクト形成調査委員会報告 －第13回横幹連合コンファレンスの企画セッションの議論を含めて－	椿 美智子、木野 泰伸
原著論文：	情報通信業に勤務するITエンジニアの収入に対する納得感に影響を及ぼす要因に関する研究	

トピック： 第13回横幹連合コンファレンス開催報告 貴島文緒、当麻哲哉、高野研一  
 トピック： 木村賞第11回授賞報告(2022年度) 早川 有、横川 慎二  
 トピック： 横幹技術協議会におけるインキュベーション会員について 高木 真人  
 トピック： 地域協創活動への取り組み 藤井 享  
 会員学会紹介： 日本デザイン学会の紹介 作井 亨、若松 正浩  
 編集後記(附 横幹技術協議会案内) 小林 昭世  
 伊藤 誠

・会誌第17巻第2号(2023年10月発行)  
 巻頭言： 横幹連合創立20周年を迎えて 安岡 善文  
 論説： 帰宅困難者の広域的移動が避難行動に与える影響の定量的把握  
 -首都圏における大都市避難シミュレーションを用いた検討- 廣井 悠  
 解説： RISTEXにおけるトランスディシプリナリー研究支援  
 ～フューチャー・アース構想の推進事業および社会技術研究開発につい  
 て～ 三村 恭子  
 解説： SATREPSのすすめ 加藤 裕二、武富 香織  
 トピック： 社会における環境保全の一翼を担う 星野 宗義  
 会員学会紹介： 社会課題達成に向けた品質工学会の活動 武重 伸秀  
 会員学会紹介： 日本リモートセンシング学会の紹介 伊東 明彦  
 編集後記(附 横幹技術協議会案内) 伊藤 誠

・会誌第17巻第3号(20周年記念号)(2023年3月発行)  
 巻頭言： 創立20周年を迎えてのご挨拶 安岡 善文  
 解説： 過去10年の歩みー概観ー 鈴木 久敏  
 トピック： 横幹連合創立20周年記念式典報告 椿 広計, 伊東 明彦, 伊藤 誠, 藤井 享  
 解説： 科学と社会-Interdisciplinaryを超えてTransdisciplinaryへ- 小谷 元子  
 トピック： 横断型基幹科学技術研究団体連合創立20周年記念式典パネル討論  
 「横幹のこれまでとこれから～横幹知の社会実装を目指して～」  
 解説： 新横幹宣言とロードマップ改訂に向けて 遠藤 薫  
 解説： コトづくり, 昨今 安岡 善文  
 解説： コトづくり至宝発掘事業 川中 孝章  
 解説： 次なる10年に向けた横幹連合・産学連携活動の新たな展開 藤井 享  
 記録： 過去10年の歩み  
 編集後記(附 横幹技術協議会案内) 伊藤 誠

### 3. 会誌編集委員会の開催

第1回 2023年9月29日 編集状況と今後の編集方針についての検討を行った。  
 第2回 2024年3月29日 2024年10月号以降の編集方針を検討した。

#### (B) 2024年度の計画

- ・引き続き、年2回の「横幹」の定期発行を行う。各号において、研究会活動やイベントの実施報告などをタイムリーに報告するべく迅速な記事集め・編集に取り組む。
- ・スムーズな編集のために委員会の会合を定期的に開催する。
- ・投稿論文を増やすための具体的な方策を検討する。

### 3-3 調査研究会 2023 年度活動報告・2024 年度活動計画

#### 3-3-1 多価値相克状況における合意形成のための動的参照モデル調査研究会(継続中)

##### (A) 2023 年度の事業報告

設置期間	2020 年 9 月～2026 年 3 月	
幹事学会	(公社) 計測自動制御学会	
主査	遠藤 薫	(学習院大学、社会情報学会)
副主査	椿 広計	(統計数理研究所、日本品質管理学会)
委員	板倉 宏昭	(東京都立産業技術大学院大学、日本経営システム学会)
委員	木野 泰伸	(筑波大学、日本品質管理学会)
委員	倉橋 節也	(筑波大学、計測自動制御学会)
委員	竹村 和久	(早稲田大学、行動経済学会)
委員	高橋 泰城	(北海道大学、行動経済学会)
委員	田名部元成	(横浜国立大学、経営情報学会、日本シミュレーション&ゲーミング学会)
委員	椿 美智子	(東京理科大学、研究・イノベーション学会)
委員	出口光一郎	(東北大学、計測自動制御学会)
委員	永原 正章	(北九州市立大学、計測自動制御学会)
委員	船橋 誠壽	(計測自動制御学会)
委員	本多 敏	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員	松井 知子	(統計数理研究所、日本統計学会)
委員	山本修一郎	(名古屋国際工科専門職大学、日本 MOT 学会)

新型コロナ・パンデミックとそれへの対応は、地球規模でのシステムから個人レベルでの行動までの変容を驚異的な速度で引き起こした。このため、監視による社会秩序優先かと個人の自由優先か、経済か防疫か、平等か功利性か、オンサイトかオンラインか、といった様々な相克を表出化させた。それがより暴力的な形で噴出したのが 2022 年 2 月のウクライナ侵攻といえるだろう。

本企画調査の目標は、急速なデジタル化による社会変容が予期されるウィズコロナ時代における社会と個人の意思決定や事業計画に必要な新たな理論的枠組みを構築することである。さらに、この枠組みをアーキテクチャ化することで、ウィズコロナで顕在化する多様な社会価値を弱者にとっても著しく褒貶することなく実現する倫理度指標や持続度指標の高い公共事業・産業ソリューションならびに複合災害時リスク対応に繋がる実装研究を企画する。

この目標を達成するために「相克する多様な価値の関係性を可視化可能な指標群の設計」「多様な指標に基づくコロナ・パンデミック対応の実態把握」「ウィズコロナの諸問題解決案を導く合意形成や配慮すべき社会倫理が参照すべきモデル、すなわちコロナ世界観の提示」の 3 項目について検討を進める。多様性、倫理性を含む公共性、持続可能性、レジリエンスといった概念を妥当性・信頼性をもって測定する指標開発は、今般のわが国のパンデミック対応に必要な多面的価値評価を可能にすることはもちろん、ELSI に係る社会変容 (Transformation) の多価値モデル表現を可能にすることが期待できる。

また、これを踏まえて、

- ① 多様なステークホルダー間の相反する価値観にバランスのとれた意思決定と行動を可能にする理論的枠組みを、可視化可能な指標群、社会シミュレーション手法を備えた方法論として提示すること、
  - ② この方法論を、公共分野政策・産業ソリューションおよび複合災害の場面で、指標計測、シミュレーション、熟議等で構成するアーキテクチャとして社会実装し、その正当性を立証すること、
- を中心に、競争的資金への申請を検討した。

2023 年度の活動は、以下の通り。

5 月 24 日	2023 年度統数研共同利用公募重点型研究報告提出
12 月 16 日	第 14 回横幹連合コンファレンス企画セッション OS05 多様な価値の背反と横幹知 オーガナイザ：遠藤 薫(学習院大学)

A1-1 多様な価値の背反と横幹知

○遠藤 薫(学習院大学)

A1-2 消費者危険と生産者危険の相克にどう向き合えるのか?～HPV ワクチン副反応に関する訴訟を例として～

○椿 広計(統計数理研究所)

A1-3 他者の視点をどうしたら取得できるかー心理実験による日常儀礼の効果の検討

○竹村和久(早稲田大学)

A1-4 地域ビジネスの経営学的分析と戦略展開：地域資源の最大活用を目指して

○板倉 宏昭(東京都立産業技術大学院大学)

A1-5 多視点ゲームが導く多様性と合意形成のジレンマ

○倉橋節也(筑波大学)

A1-6 ビッグデータと機械学習で読み解く省エネルギーの意識と行動

永原正章 (広島大学大学院)

1月10日 2024年度統数研共同利用公募重点型研究提案申請

3月15日 統計数理研究所公募型共同利用 2023年重点型研究(テーマ1)集会  
「多様な価値の背反を前提とした新たな社会倫理の構成」

○遠藤 薫(学習院大学)

(B) 2024年度の事業計画

調査研究会を継続し、ウィズコロナで顕在化する多様な社会価値を弱者にとっても著しく褒貶することなく実現する倫理度指標や持続度指標の高い公共事業・産業ソリューションならびに複合災害時リスク対応に繋がる実装することを目的とした調査研究活動を行う。

2024年5月 第1回調査研究会

2ヶ月毎に調査研究会開催

2024年10月 科研費応募(基盤研究)

2024年12月 第15回横幹連合コンファレンス OS

2025年1月 科研費応募(新領域研究)

2024年5月 第1回調査研究会

2ヶ月毎に調査研究会開催

2024年10月 科研費応募(基盤研究)

2024年12月 第15回横幹連合コンファレンス OS

2025年1月 科研費応募(新領域研究)

3-3-2 SDGsに資する産官学プロジェクト形成調査研究会(継続中)

(A) 2023年度の事業報告

設置期間 2021年11月～2025年10月

幹事学会 (公社)計測自動制御学会

主査 椿 美智子 (東京理科大学、研究・イノベーション学会)

副主査 木野 泰伸 (筑波大学、日本品質管理学会)

幹事 船橋 誠壽 (計測自動制御学会)

委員・幹事 本多 敏 (慶應義塾大学、計測自動制御学会)

委員 椿 広計 (統計数理研究所、日本品質管理学会)

委員 田名部元成 (横浜国立大学、日本シミュレーション&ゲーミング学会)

委員 倉橋 節也 (筑波大学、計測自動制御学会)

委員 板倉 宏昭 (東京都立産業技術大学院大学、日本経営システム学会)

委員 佐藤 彰洋 (横浜市大学、日本統計学会)

本研究会の目的は、SDGs 達成に資する学術横断的システムの姿を明らかにすることで、必要な産官学協働プロジェクトを企画し、その社会実現に向けた活動を組織することである。横幹思考が必要な SDGs 目標を明確にし、SDGs 指標間のトレードオフなどの考察に必要となる知の統合と産官との連携が明確となるプロジェクトの開始が可能となれば、SDGs に効果的に対処するモデルプロジェクトとなり得る。

2023.04.26(水) 14:00-17:00 Zoom 研究会

第 5 回調査研究会 国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター  
令和 5 年度 社会技術研究開発事業

「SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラムシナリオ創出フェーズ」応募のための検討ディスカッション

2023.05.08(月) 20:00-21:00 Zoom 研究会

第 6 回調査研究会 上記応募のための書類作成ディスカッション

2023.05.11(木) 9:00-10:30 Zoom 研究会

第 7 回調査研究会 上記応募のための書類作成ディスカッション

2023.05.15(月) 11:00-11:30 檜原村役場

第 8 回調査研究会 檜原村村長吉本氏と上記応募のためのディスカッション

2023.05.17(水) 14:30-16:00 Zoom 研究会

第 9 回調査研究会 国立環境研究所の林岳彦先生にご講演頂いての勉強会

「Evidence-Based Practices にとって「良いエビデンス」とは何か」

2023.06.06(火)

RISTEX 令和 5 年度社会技術研究開発事業「SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラムシナリオ創出フェーズ」に檜原村と協力して、「データドリブンなマルチネットワーク社会シミュレーションに基づく自治会連携村づくりシナリオ開発」というテーマで応募

2023.07 上記書類審査通過

面接選考会のための準備 面接選考会のための書類とパワーポイントの準備検討会

2023.08.03(木) 13:00-14:00 檜原村役場

面接選考会のための檜原村での打ち合わせ会議

2023.08.04(金) 12:50-13:20 面接選考会

2023.09 - 10

横幹連合コンファレンス企画及び発表準備

各メンバーが発表しての OS を企画：SDGs に資する村づくりプロジェクトにおける地域コミュニティの形成に基づく課題解決アプローチ

2023.12.16(土)16:15-18:15

第 14 回横幹連合コンファレンス企画セッション「SDGs に資する村づくりプロジェクトにおける地域コミュニティの形成に基づく課題解決アプローチ」を企画・実施、オーガナイザ：椿美智子(東京理科大学)

本セッションでは、本調査研究会の本年度の活動の進歩を示し、今後の展開に有意義な議論を行った。

講演(1) 16:15~16:35 D-2-1

氏名：○船橋 誠壽(システム人)、椿 美智子(東京理科大学)、板倉 宏昭(東京都立産業技術大学院大学)

講演タイトル：村おこし構想立案のための AI システムズアプローチ実験

講演(2) 16:35~16:55 D-2-2

氏名：○板倉 宏昭(東京都立産業技術大学院大学)

講演タイトル：産官学の新たな連携 -檜原ケース-

講演(3) 16:55～17:15 D-2-3

氏名：○椿 美智子(東京理科大学)、瀬川 優太郎(東京理科大学)、今井 友貴(東京理科大学)、平林 里桜(東京理科大学)

講演タイトル：ベイジアンネットワークを用いた檜原村の幸福感や地域力への影響の要因モデリング

講演(4) 17:15～17:35 D-2-4

氏名：○倉橋 節也(筑波大学)、熊田 ふみ子(筑波大学)、稲垣 仁美(筑波大学)、永井 秀幸(宮城大学)

講演タイトル：地域におけるコミュニティー包摂性調査

講演(5) 17:35～17:55 D-2-5

氏名：○佐藤 彰洋(横浜市立大学)、椿 広計(統計数理研究所)

講演タイトル：メッシュ統計を使った地域課題解決アプローチのための計量基盤

講演(6) 17:55～18:15 D-2-6

氏名：○田名部 元成(横浜国立大学)

講演タイトル：SDGs 課題へのゲーミングアプローチ

2024.01.09 重点領域研究班継続申請 データサイエンスからみた統計数理科学と統計数理科学からみたデータサイエンス：質的モデリングからみた統計数理科学

2024.03.15(金)10:00-17:30 重点領域研究集会 統数研重点領域合同研究会として実施：データサイエンスからみた統計数理科学と統計数理科学からみたデータサイエンス：質的モデリングからみた統計数理科学

(B) 2024 年度の事業計画

・2024 年度の本研究会の事業計画の目標は、第 15 回横幹連合コンファレンスで本調査研究会中心の OS を企画・実行することとする。また、産学官共同プロジェクトの企画準備を更に進める。

・また、メンバー全てで分析が可能なように、過疎地域に対するアンケート調査(重点領域研究班予算)を行ったので、様々な分析の視点からの成果を示す。

SDGs には、目標 1「貧困をなくそう」から目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」までの 17 目標が掲げられている。SDGs の考えに基づいて、過疎地域の地方創生を考えていくときにも、SDGs ゴール 17「パートナーシップで目標を達成しよう」、SDGs ゴール 11「住み続けられるまちづくりを」、3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs ゴール 8「働きがいも経済成長も」、9「産業と技術革新の基盤を作ろう」、15「陸の豊かさを守ろう」など、様々な目標が関連している。その中には、村民同士の心理的な問題、グループ同士の考え方の違いなど、人文社会学的アプローチの方が相応しいテーマもあるように感じられるが、社会・組織の中にあつて複雑に絡み合う要素の関係を理解し、「質的研究法(テキストマイニングを含む)」「アンケート調査(スノーボールアンケート調査を含む)・インタビュー調査」「統計数理的手法(メッシュ統計データの整備を含む)」「ネットワーク構造の多面的モデル化(データサイエンス的視点(ベイジアンネットワークを含む))(合成人口データからのエージェントシミュレーションおよびネットワーク分析視点)(メッシュ統計データ分析視点)」「工学的設計手法(モデルをベースとして参画型ゲームシミュレーションを行うことを含む)」を適切に組み合わせることによって、社会システムを設計していくことが、有効であると考えられる。本研究の目的は、これらの方法を組み合わせることによる社会システム設計が有効であることを示していくことである。

本研究では、村民の地域コミュニティーの形成、具体的には自治会が互いに連携をすることによって暮らしの質を高め、産業の活発化に通じる課題解決プロセスの導出およびそのためのツール群の整備等ができればと考えている。その実現に向けて考えられることとして、(1) 質的研究法・アンケート調査・インタビュー調査として「村民や関係者への調査(スノーボールアンケート調査・インタビュー調査を含む)およびメッシュ統計データの整備など」、(2) 統計数理的手法・エージェントシミュレーションとして「自治会群のネットワーク構造を明らかにするために、データサイエンス視点、エージェントシミュレーションおよびネットワーク分析視点、メッシュ統計データ分析視点からの多面的なモデル化など」、(3) 工学的設計手法として「このモデルをベースとしての、村民、行政など関与者が加わった参画型ゲーミングシミュレーションなど」を適切に組み合わせる行うことによって、課題の本質発見と解決策の導出、関与者の態度変容に結びつけることを目指すことによって、質的モデリングと統計数理科学の方法を適切に融合して行くことにより、双方が、社会の中で生かされて行く方法を模索していく。

2024 年 5 月 第 1 回調査研究会

2024年7月 第2回調査研究会  
 2024年9月 第3回調査研究会  
 2024年12月 第15回横幹連合コンファレンス企画セッション  
 2025年2月 第4回調査研究会  
 2025年3月 第5回調査研究会

### 3-3-3 横幹知で推進するDX調査研究会(継続中)

#### (A) 2023年度の事業報告

設置期間	2022年4月～2026年3月	
幹事学会	(公社)計測自動制御学会	
主査	山本修一郎	(名古屋国際工科専門職大学、日本MOT学会)
副主査	船橋 誠壽	(横幹連合、計測自動制御学会)
委員	田名部元成	(横浜国立大学、経営情報学会、日本シミュレーション&ゲーミング学会)
委員	藤井 享	(北見工業大学、国際戦略経営研究学会)
委員	西村 秀和	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員・幹事	本多 敏	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員	椿 広計	(統計数理研究所、日本品質管理学会)
委員	木下 智雄	(東京海上研究所、日本開発工学会)
委員	伊東 明彦	((株)ツクリエ、日本リモートセンシング学会)
委員	喜多 一	(京都大学、システム制御情報学会)
委員	歌代 豊	(明治大学、国際戦略経営研究学会)
委員	櫻井成一朗	(明治学院大学、社会情報学会)
委員	岩村 篤	(慶應義塾大学)
委員	松井 正之	(神奈川大学、日本経営工学会)
委員	平田 貞代	(芝浦工業大学、日本開発工学会)

本調査委員会は、複雑で多様化している人間・社会の諸問題の解決をゴールとした Society5.0、SDGs が提唱されている中、DX (デジタル技術が人間の生活のあらゆる側面に引き起こす、あるいは影響を与える変化) が注目されており、どんな変化が起こりえるか、人間の生活に望ましい姿は何か、デジタル技術の進化仮説の立案とその帰結の探索に加えて、デジタル技術の進展が知にどのような影響をもたらすか、共創の姿はどのような形に変貌を遂げるのか。など、横幹連合として取り組むことを行ってきた。またあわせて、変革するための技術としてのアーキテクチャをベースとする DX と、変革された結果としてのさまざまな DX を総合してあつかう横幹知・総合知を構築する活動を行ってきた。

具体的な検討課題として提案していた以下の4項目：

1. 複雑化する問題の解明  
日本の産業現場では熟練者の定年退職問題や、技能工の経験知の伝承、デジタル変革への抵抗、など相互に関連する複雑な問題があり、システムとして総合的・俯瞰的に捉えるための新たな横幹知が必要である。
2. DX の範囲の拡張  
企業におけるデジタル変革だけでなく、XのXを社会、経済、行政、法制度、教育、文化を含むより広い対象分野のデジタル化を包括的に表す変数と捉えて、それぞれのデジタル化を横断的に統合する知を解明する必要がある。
3. デジタル知識進化のモデル化  
従来の SECI モデル等は、現在のデジタル技術を扱いきれていない。また、ものづくりの自動化、ものづくりにおける作業プロセスや経験知のデジタル技術による見える化が必要になっている。現在の DX におけるデジタルツインは、設備機械の稼働状況などを扱うだけで作業者のプロセスや経験までは扱いきれておらず、DX におけるものこととの知識の関係を究明する必要がある。
4. MBSE に基づくデジタルエンジニアリングの振興

エンジニアリング活動の DX であるでは、MBSE (Model Based System Engineering) をサブセットして実装することを視野に入れて調査研究を実施する。  
を展開した。具体的な活動成果は以下の通り。

1) 研究会開催

SICE の計測制御システムの安心・安全を考える会と横幹連合 DX 調査研究会との合同研究会：2024 年 1 月 30 日 (火) 15:00-18:00

木下委員：保険と技術の共創 ～地震リスクに立ち向かう～

第 14 回横幹コンファレンスセッション企画委員会：(メール)

企画セッションのテーマ選定 (山本主査、船橋副主査、本多幹事)

2) 情報発信

第 14 回横幹コンファレンス セッション企画

B-3 OS12：横幹知で推進する領域融合の DX にむけて

司会：山本 修一郎(名古屋国際工科専門職大学)

オーガナイザ：山本 修一郎(名古屋国際工科専門職大学) 本多 敏(慶應義塾大学)

B-3-1 生成 AI による構想立案・アーキテクティング支援の可能性

○船橋 誠壽(システムサイエンティスト)

B-3-2 システムズアーキテクチャによる領域融合の基盤構築

○本多敏・西村秀和(慶應義塾大学)

B-3-3 領域融合の DX における保険の役割

○木下智雄(東京海上研究所)

B-3-4 DX に対する組織能力の影響分析

○歌代 豊(明治大学)

B-3-5 産学官金連携による地域型 DX の推進と課題

○藤井 享(北見工業大学)

B-3-6 デジタル知の共創に向けた倫理モデルの表現法について

○山本 修一郎(名古屋国際工科専門職大学)

等の活動を行った。

(B) 2024 年度の事業計画

前年度に引き続いて、変革するための技術としてのアーキテクチャをベースとする DX と、変革された結果としてのさまざまな DX を総合してあつかう横幹知・総合知を構築する活動を継続し、

研究会 6 回開催

コンファレンスでのセッション企画

を予定している。

また、藤井委員が実施予定の産学連携フォーラム企画に協力する。

2024 年 4 月 第 6 回調査研究会

2024 年 6 月 第 7 回調査研究会

2024 年 8 月 第 8 回調査研究会

2024 年 10 月 競争的資金への応募

2024 年 11 月 第 9 回調査研究会

2024 年 12 月 第 15 回横幹連合コンファレンス OS 企画

2025 年 1 月 第 10 回調査研究会

2025 年 3 月 ワークショップ・シンポジウム企画(第 11 回調査研究会)

3-3-4 TD (Transdisciplinary) 概念とその研究評価システムに関する調査研究会

(A) 2023 年度の事業報告

設置期間

2023 年 11 月～2025 年 5 月

幹事学会	日本経営システム学会
主査	安岡 善文 (東京大学、日本リモートセンシング学会)
幹事	本多 啓介 (統計数理研究所、日本経営システム学会)
委員	三村 恭子 (東京大学医科学研究所)
委員	小林 傳司 (科学技術振興機構)
委員	谷口 真人 (総合地球環境学研究所)
委員	水上 祐治 (日本大学生産工学部、日本経営システム学会)
委員	船橋 誠壽 (計測自動制御学会)
委員	遠藤 薫 (学習院大学、社会情報学会)
委員	持橋 大地 (統計数理研究所)
委員	椿 広計 (統計数理研究所、日本品質管理学会)

本調査研究会の目的は、学術研究における TD (Transdisciplinary) 概念を明確にし、文理に跨がり、他学術領域に長期的に影響を与え得る研究業績等を如何に評価するかについての新たな方法論と、これら TD 型研究の評価システムを提唱し、実装に繋がる活動を計画することである。

縦型学術評価システムの典型であるインパクトファクターなどの評価制度に加えて、TD 型研究評価の方法と研究評価システムが実装されれば、多様な学術分野の知の統合を通じて学術課題並びに社会課題解決に当たる中堅・若手研究者の評価が向上し、TD 型研究者層の増大も期待される。彼らの TD 型研究プロジェクト貢献を正当に評価することにより知の統合なくして解決できない喫緊の社会課題解決が加速することも可能となる。

2023 年度においては、調査研究会立ち上げ直後の第 14 回横幹連合コンファレンス (東京大学、2023 年 12 月) において企画セッション「TD 概念の明確化とその研究評価システム」(オーガナイザ; 本多啓介幹事) を開催し、複数の科学技術分野の連携による研究を評価する計量書誌学的方法論による評価法について、国内外からの研究者による発表を行った。また、2024 年 3 月に第 1 回調査研究会を開催し、今後の活動方針等を検討した。活動概要を以下にまとめる。

2023.11~12	関連学会などへの委員追加公募(含む政策担当者)
2023.12	キックオフ 横幹連合コンファレンス企画セッション
2024.01	大学共同利用機関統計数理研究所共同研究集会申請(2024 年度 6 月以降の活動計画)
2024.03	第 1 回調査研究会(学術横幹性概念定義)

#### (B) 2024 年度の事業計画

第 15 回横幹連合コンファレンス (東京工業大学) において企画セッションを計画し、活動概要の中間報告を行うとともに、計 3 回の調査研究会を開催し、研究成果の取りまとめに向けた準備を行う。計画の概要を以下にまとめる。

2024.06	第 2 回調査研究会(多様性指標の必要性と発展)
2024.08	第 3 回調査研究会(多分野の研究者との集中的議論、研究プロジェクト構想)
2024.12	横幹連合コンファレンス企画セッション(成果とりまとめに向けたワークショップとして企画セッション)
2025.01	共同研究集会申請(1 年次研究成果とりまとめ、雑誌横幹への投稿)
2025.03	第 4 回調査研究会(研究プロジェクト提案)
2025.05	横幹連合総会での特別報告(横幹性とその評価)

#### 4. 第4号議案：2023年度収支決算報告および2024年度予算案

法人名：特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合

#### 活動計算書

2023年4月1日～2024年3月31日

(単位：円)

科 目	金額	
一般正味財産増減の部		
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	1,600,000	1,600,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金	0	
受取寄付金振替額	62,210	62,210
3. 受取助成金等	0	
受取民間助成金	0	
受取国庫補助金	0	0
4. 特定資産運用益		
特定資産受取利息	12	12
5. 事業収益		
コンファレンス事業収益	1,652,000	
会誌事業収益	154,000	
木村賞事業収益	0	
広報・出版事業収益	0	
調査研究会事業収益	0	
受託事業収益	0	
20周年記念事業収益	180,000	
その他事業収益	39,000	2,025,000
6. その他収益		
受取利息	54	
雑収益	0	54
経常収益計		3,687,276
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	698,811	
臨時要員雇用費	269,274	
人件費計	968,085	
(2) その他経費		
会議費	0	
会場費	447,092	
印刷製本費	74,246	
旅費交通費	8,624	
通信運搬費	24,418	
委託費	345,164	
木村賞費	62,694	
広報費	0	
諸謝金	220,176	
消耗品費	8,953	
懇親会費	489,500	
支払負担金	30,000	
雑費	118,735	
その他経費計	1,829,602	
事業費計		2,797,687
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	668,268	
臨時要員雇用費	0	
法定福利費	5,317	
人件費計	673,585	
(2) その他経費		
会議費	0	
会場費	0	
印刷製本費	70,122	
旅費交通費	107,473	
通信運搬費	106,312	
諸謝金	0	
消耗品費	57,237	
懇親会費	0	
租税公課	0	
雑費	40,128	
その他経費計	381,272	
管理費計		1,054,857
経常費用計		3,852,544
当期一般正味財産増減額		△ 165,268
前期繰越一般正味財産額		6,327,363
次期繰越一般正味財産額		6,162,095
指定正味財産増減の部		
1. 受取寄付金		0
2. 一般正味財産への振替額	△ 62,210	△ 62,210
当期指定正味財産増減額		△ 62,210
前期繰越指定正味財産額		1,489,742
次期繰越指定正味財産額		1,427,532
次期繰越正味財産額		7,589,627

法人名：特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合

## 貸借対照表

2024年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額		
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金	6,429,425		
<b>流動資産合計</b>		<b>6,429,425</b>	
<b>2. 固定資産</b>			
(1) 有形固定資産			
<b>有形固定資産計</b>	<b>0</b>		
(2) 無形固定資産			
<b>無形固定資産計</b>	<b>0</b>		
(3) 投資その他の資産			
木村賞基金	427,532		
基金	1,000,000		
<b>投資その他の資産計</b>	<b>1,427,532</b>		
<b>固定資産合計</b>		<b>1,427,532</b>	
<b>資産合計</b>			<b>7,856,957</b>
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
未払金	139,600		
前受金	121,000		
預り金	6,730		
<b>流動負債合計</b>		<b>267,330</b>	
<b>2. 固定負債</b>			
<b>固定負債合計</b>		<b>0</b>	
<b>負債合計</b>			<b>267,330</b>
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1. 一般正味財産</b>			
前期繰越一般正味財産		6,327,363	
当期一般正味財産増減額		△ 165,268	
<b>2. 指定正味財産</b>			
前期繰越指定正味財産		1,489,742	
当期指定正味財産増減額		△ 62,210	
<b>正味財産合計</b>			<b>7,589,627</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>			<b>7,856,957</b>

## 財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科目	コンファレンス事業	会誌事業	木村賞事業	広報事業	調査研究会事業	受託事業	20周年記念事業	その他事業	事業部門計	管理部門	合計
<b>I 経常収益</b>											
1. 受取会費									0	1,600,000	1,600,000
2. 受取寄付金			62,210						62,210	0	62,210
3. 受取助成金等									0	0	0
4. 特定資産運用益			4						4	8	12
5. 事業収益	1,652,000	154,000					180,000		1,986,000	0	1,986,000
6. その他収益								39,054	39,054	0	39,054
<b>経常収益計</b>	<b>1,652,000</b>	<b>154,000</b>	<b>62,214</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>180,000</b>	<b>39,054</b>	<b>2,087,268</b>	<b>1,600,008</b>	<b>3,687,276</b>
<b>II 経常費用</b>											
<b>(1) 人件費</b>											
給料手当	545,985	152,826							698,811	668,268	1,367,079
臨時要員雇用費	220,974			21,000			27,300		269,274	0	269,274
法定福利費									0	5,317	5,317
<b>人件費計</b>	<b>766,959</b>	<b>152,826</b>	<b>0</b>	<b>21,000</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>27,300</b>	<b>0</b>	<b>968,085</b>	<b>673,585</b>	<b>1,641,670</b>
<b>(2) その他経費</b>											
会議費									0	0	0
会場費	206,292						240,800		447,092	0	447,092
印刷製本費		74,246							74,246	70,122	144,368
旅費交通費	5,146						3,478		8,624	107,473	116,097
通信運搬費	13,822	620		1,936	484		6,896	660	24,418	106,312	130,730
委託費	290,558						54,606		345,164	0	345,164
木村賞			62,694						62,694	0	62,694
広報費									0	0	0
諸謝金	111,370				20,000		88,806		220,176	0	220,176
消耗品費	3,725	3,725					1,503		8,953	57,237	66,190
懇親会費	247,500						242,000		489,500	0	489,500
支払負担金								30,000	30,000	0	30,000
租税公課									0	0	0
雑費	95,935				5,760		17,040		118,735	40,128	158,863
<b>その他経費計</b>	<b>974,348</b>	<b>78,591</b>	<b>62,694</b>	<b>1,936</b>	<b>26,244</b>	<b>0</b>	<b>655,129</b>	<b>30,660</b>	<b>1,829,602</b>	<b>381,272</b>	<b>2,210,874</b>
<b>経常費用計</b>	<b>1,741,307</b>	<b>231,417</b>	<b>62,694</b>	<b>22,936</b>	<b>26,244</b>	<b>0</b>	<b>682,429</b>	<b>30,660</b>	<b>2,797,687</b>	<b>1,054,857</b>	<b>3,852,544</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>△ 89,307</b>	<b>△ 77,417</b>	<b>△ 480</b>	<b>△ 22,936</b>	<b>△ 26,244</b>	<b>0</b>	<b>△ 502,429</b>	<b>8,394</b>	<b>△ 710,419</b>	<b>545,151</b>	<b>△ 165,268</b>

3. 用途等が制約された寄付等の内訳

用途等が制約された寄付等の内訳は以下の通りです。当法人の正味財産は7,589,627円ですが、そのうち1,427,532円は木村賞事業基金と基金に使用される財産です。したがって、用途の制約されていない正味財産は6,162,095円です。

(単位:円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
木村賞基金	489,742	4	62,214	427,532	木村賞賞金および記念品代
基金	1,000,000	6	6	1,000,000	法人設立時の基金
<b>合計</b>	<b>1,489,742</b>	<b>10</b>	<b>62,220</b>	<b>1,427,532</b>	

法人名：特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合

## 財産目録

2024年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
<b>I 資産の部</b>		
1. 流動資産		
現金預金		
手許現金	6,563	
三菱UFJ銀行本郷支店普通預金	6,382,746	
三菱UFJ銀行本郷支店普通預金	40,116	
<b>流動資産合計</b>		<b>6,429,425</b>
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産		
(2) 無形固定資産		
(3) 投資その他の資産		
木村賞基金 三菱UFJ銀行本郷支店普通預金	427,532	
基金 三菱UFJ銀行本郷支店普通預金	1,000,000	
<b>固定資産合計</b>		<b>1,427,532</b>
<b>資産合計</b>		<b>7,856,957</b>
<b>II 負債の部</b>		
1. 流動負債		
未払金		
3月分給与, 通勤交通費, ソフトバンク利用料	139,600	
前受金		
横幹18-1原著論文掲載料	121,000	
預り金		
源泉所得税	5,230	
住民税	1,500	
<b>流動負債合計</b>		<b>267,330</b>
2. 固定負債		
<b>固定負債合計</b>		<b>0</b>
<b>負債合計</b>		<b>267,330</b>
<b>正味財産</b>		<b>7,589,627</b>

## 監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合の2023年4月1日から2024年3月31日にいたる会計年度の収支明細と現預金残高について、書類に基づき会計監査を行った結果、適正に会計処理されており、別紙活動計算書および現預金残高は事実と相違ないことを確認しました。基金につきましても、正しく管理されていることを証します。

また、同年度の理事会に出席して業務監査を行い、理事会の議事運営が規約に則り適正に行われていたことを確認しました。

横断型基幹科学技術研究団体連合の監査結果を以上のとおり、監事として署名・押印して報告します。

2024年4月15日

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合

監事

本 多 敏

(本多 敏)



監事

川 崎 茂

(川崎 茂)



活動予算書(案)

2024年4月1日～2025年3月31日

(単位：円)

科目	金額	
一般正味財産増減の部		
<b>I 経常収益</b>		
1. 受取会費		
正会員受取会費	1,600,000	1,600,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金	0	
受取寄付金振替額	648,000	648,000
3. 受取助成金等		
受取民間助成金	0	
受取国庫補助金	0	0
4. 特定資産運用益		
特定資産受取利息	27	27
5. 事業収益		
コンファレンス事業収益	1,652,000	
会誌事業収益	352,000	
木村賞事業収益	0	
広報・出版事業収益	0	
調査研究会事業収益	0	
受託事業収益	3,000,000	
20周年記念事業収益	0	
その他事業収益	0	5,004,000
6. その他収益		
受取利息	18	
雑収益	0	18
<b>経常収益計</b>		<b>7,252,045</b>
<b>II 経常費用</b>		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	700,000	
臨時要員雇用費	528,000	
人件費計	1,228,000	
(2) その他経費		
会議費	430,000	
会場費	670,000	
印刷製本費	1,897,446	
旅費交通費	540,000	
通信運搬費	164,996	
委託費	300,000	
木村賞費	148,000	
広報費	0	
諸謝金	912,810	
消耗品費	276,000	
懇親会費	247,500	
支払負担金	30,000	
雑費	551,000	
その他経費計	6,167,752	
<b>事業費計</b>		<b>7,395,752</b>
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	700,000	
臨時要員雇用費	10,000	
法定福利費	7,000	
人件費計	717,000	
(2) その他経費		
会議費	30,000	
会場費	70,000	
印刷製本費	79,000	
旅費交通費	100,000	
通信運搬費	151,770	
諸謝金	55,685	
消耗品費	30,000	
懇親会費	0	
租税公課	2,000	
雑費	50,000	
その他経費計	568,455	
<b>管理費計</b>		<b>1,285,455</b>
<b>経常費用計</b>		<b>8,681,207</b>
当期一般正味財産増減額		△ 1,429,162
前期繰越一般正味財産額		6,162,095
次期繰越一般正味財産額		4,732,933
<b>指定正味財産増減の部</b>		
1. 受取寄付金	2,000,000	
2. 一般正味財産への振替額	△ 648,000	
当期指定正味財産増減額		<b>1,352,000</b>
前期繰越指定正味財産額		<b>1,427,532</b>
次期繰越指定正味財産額		<b>2,779,532</b>
<b>次期繰越正味財産額</b>		<b>7,512,465</b>

## 財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	コンファレンス 事業	会誌事業	木村賞事業	広報事業	調査研究会事 業	受託事業	20周年記念 事業	その他事業	事業部門計	管理部門	合計
<b>I 経常収益</b>											
1. 受取会費									0	1,600,000	1,600,000
2. 受取寄付金			148,000	500,000					648,000		648,000
3. 受取助成金等									0		0
4. 特定資産運用益			3					16	19	8	27
5. 事業収益	1,652,000	352,000							2,004,000		2,004,000
6. その他収益						3,000,000			3,000,000	18	3,000,018
<b>経常収益計</b>	<b>1,652,000</b>	<b>352,000</b>	<b>148,003</b>	<b>500,000</b>	<b>0</b>	<b>3,000,000</b>	<b>0</b>	<b>16</b>	<b>5,652,019</b>	<b>1,600,026</b>	<b>7,252,045</b>
<b>II 経常費用</b>											
<b>(1) 人件費</b>											
給料手当	600,000	100,000							700,000	700,000	1,400,000
臨時要員雇用費	304,000			24,000		200,000			528,000	10,000	538,000
法定福利費									0	7,000	7,000
<b>人件費計</b>	<b>904,000</b>	<b>100,000</b>	<b>0</b>	<b>24,000</b>	<b>0</b>	<b>200,000</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1,228,000</b>	<b>717,000</b>	<b>1,945,000</b>
<b>(2) その他経費</b>											
会議費					60,000	250,000		120,000	430,000	30,000	460,000
会場費	120,000				50,000	500,000			670,000	70,000	740,000
印刷製本費	0	74,246		1,000,000	50,000	600,000	123,200	50,000	1,897,446	79,000	1,976,446
旅費交通費	10,000				80,000	300,000		150,000	540,000	100,000	640,000
通信運搬費	16,000		660	1,936		100,000	44,400	2,000	164,996	151,770	316,766
委託費	300,000								300,000		300,000
木村賞			148,000						148,000		148,000
広報費									0		0
諸謝金	224,968			27,842	150,000	450,000		60,000	912,810	55,685	968,495
消耗品費	20,000				6,000	250,000			276,000	30,000	306,000
懇親会費	247,500								247,500		247,500
支払負担金								30,000	30,000		30,000
租税公課									0	2,000	2,000
雑費	117,000				4,000	350,000	30,000	50,000	551,000	50,000	601,000
<b>その他経費計</b>	<b>1,055,468</b>	<b>74,246</b>	<b>148,660</b>	<b>1,029,778</b>	<b>400,000</b>	<b>2,800,000</b>	<b>197,600</b>	<b>462,000</b>	<b>6,167,752</b>	<b>568,455</b>	<b>6,736,207</b>
<b>経常費用計</b>	<b>1,959,468</b>	<b>174,246</b>	<b>148,660</b>	<b>1,053,778</b>	<b>400,000</b>	<b>3,000,000</b>	<b>197,600</b>	<b>462,000</b>	<b>7,395,752</b>	<b>1,285,455</b>	<b>8,681,207</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>△ 307,468</b>	<b>177,754</b>	<b>△ 657</b>	<b>△ 553,778</b>	<b>△ 400,000</b>	<b>0</b>	<b>△ 197,600</b>	<b>△ 461,984</b>	<b>△ 1,743,733</b>	<b>314,571</b>	<b>△ 1,429,162</b>

3. 使途等が制約された寄付等の内訳

使途等が制約された寄付等の内訳は以下の通りです。当法人の正味財産は7,512,465円ですが、そのうち2,841,742円は木村賞事業基金、横幹事業推進基金と基金に使用される財産です。したがって、使途の制約されていない正味財産は4,670,723円です。

(単位:円)

内 容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備 考
基金	1,000,000	8	8	1,000,000	法人設立時の基金
木村賞基金	489,742	3	148,003	341,742	木村賞賞金および記念品代
横幹事業推進基金	0	2,000,016	500,016	1,500,000	新刊発行支援
<b>合 計</b>	<b>1,489,742</b>	<b>2,000,027</b>	<b>648,027</b>	<b>2,841,742</b>	

## 5. 報告事項1：横幹連合創立20周年記念事業について

### 20周年記念事業実行委員会活動報告

#### 1. 委員会構成

委員長	鈴木 久敏	(日本経営工学会)
副委員長(理事)	安岡 善文	(東京大学名誉教授、日本リモートセンシング学会)
副委員長(理事)	椿 広計	(統計数理研究所、日本品質管理学会)
副委員長(理事)	高木 真人*	(日本工学会、計測自動制御学会)
委員(理事)	青木 洋貴	(東京工業大学、日本人間工学会)
委員(理事)	伊東 明彦	((株)ツクリエ、日本リモートセンシング学会)
委員(理事)	伊藤 誠	(筑波大学、日本品質管理学会)
委員(理事)	早川 有	(早稲田大学、日本信頼性学会)
委員(理事)	藤井 享	(北見工業大学、国際戦略経営研究学会)
委員(理事)	藤田 政之	(東京大学、計測自動制御学会)
委員	遠藤 薫	(学習院大学、社会情報学会)
委員	木村 忠正	(電気通信大学、日本信頼性学会)
委員	倉橋 節也	(筑波大学、計測自動制御学会)
委員	武田 博直	(VRコンサルタント、日本バーチャルリアリティ学会)
委員	船橋 誠壽	(計測自動制御学会)
委員	本多 敏	(慶応義塾大学、計測自動制御学会)
事務局	並木 正美	

\*2023.6で退任

#### 2. 記念事業の実施

20周年記念事業準備委員会を2022年9月16日に発足し、7回の準備委員会、1回の拡大準備委員会を開催、その後実行委員会に移行し、4回の委員会を開催し、下記の事業を計画、実施した。

##### (1) 創立20周年記念式典

日時：2023年6月13日(火) 15:00～18:00

会場：東京大学山上会館

次第：

会長挨拶

来賓祝辞

20周年記念特別講演

演題：「科学と社会 — Interdisciplinary を超えて Transdisciplinary へ—」

講師：小谷 元子 氏(東北大学 理事・副学長、科学技術振興機構 地球規模課題

対応国際科学技術協力プログラム 運営統括)

歴代会長を含むパネル討論会

懇親会

##### (2) 会誌「横幹」第17巻第3号(20周年記念特集号)の発行

巻頭言：創立20周年を迎えてのご挨拶

安岡 善文

解説：過去10年の歩み—概観—

鈴木 久敏

トピック：横幹連合創立20周年記念式典報告

椿 広計, 伊東 明彦, 伊藤 誠, 藤井 享

解説：科学と社会-Interdisciplinary を超えて Transdisciplinary へ—

小谷 元子

トピック：横断型基幹科学技術研究団体連合創立20周年記念式典パネル討論

「横幹のこれまでとこれから～横幹知の社会実装を目指して～」

解説：新横幹宣言とロードマップ改訂に向けて

遠藤 薫

解説：コトづくり，昨今  
解説：コトづくり至宝発掘事業  
解説：次なる 10 年に向けた横幹連合・産学連携活動の新たな展開

安岡 善文  
川中 孝章  
藤井 享

記録：過去 10 年の歩み  
編集後記（附 横幹技術協議会案内）

- (3) 会誌「横幹」第 17 巻第 3 号（20 周年記念特集号）の印刷発行  
記念特集号を印刷発行し、関係者へ配布することとした。なお、そのため 2024 年度予算に印刷製本費 123,200 円、通信運搬費 44,400 円、雑費 30,000 円を計上することとした。

### 3. 委員会開催

2022.9.16	第 1 回準備委員会 当面のミッションと 1 月以降の活動計画について
2022.10.18	第 2 回準備委員会 12 月理事会への記念事業実施案を含む答申案について
2022.11.15	第 3 回準備委員会 記念事業候補とタイムラインについて
2022.12.13	第 4 回準備委員会 各記念事業候補の評価と理事会への提案候補の絞り込みについて
2023.2.1	第 5 回準備委員会 会場の検討と、この 10 年の歩みの抜き出しについて
2023.2.9	第 6 回準備委員会 20 周年記念式典および定時総会の内容について
2023.3.2	第 7 回準備委員会 横幹連合この 10 年の歩みの執筆依頼と実行委員会への移行について
2023.3.31	第 1 回拡大準備委員会 記念事業の内容と今後の進め方について
2023.5.19	第 1 回実行委員会 記念式典の招待者、当日の内容および担当者について
2023.7.3	第 2 回実行委員会 当日の総括と今後の進め方について
2023.10.11	第 3 回実行委員会 記念特集号および今後の進め方について
2024.4.16	第 4 回実行委員会 事業終了報告および決算報告と今後の進め方について

4. 20周年記念事業収支計算書

## 創立20周年記念事業収支計算書

収入

2024/3/31現在(単位:円)

科目名	摘要	予算額	摘要	収入済額
懇親会参加費		480,000		180,000
	6,000円×80名	480,000	5,000円×36名	180,000
合計		480,000		180,000

支出

(単位:円)

科目名	摘要	予算額	摘要	支出済額
人件費		0		59,506
			会誌編集業務(約45h)	59,506
臨時要員雇用費		0		27,300
			片桐正雄さん	13,650
			溝口勇哉さん	13,650
会場費		123,700		240,800
	大会議室午後	53,200	大会議室午後	53,200
	大会議室夜	46,600	大会議室夜	46,600
	談話ホール	17,500	談話ホール	17,500
	応接室午後	6,400	応接室午後	6,400
			201会議室午後	4,250
			201会議室夜	3,700
			202会議室午後	4,250
			202会議室夜	3,700
			看板代	79,200
			お花	22,000
旅費交通費		0		3,478
			事務局交通費	2,400
			アルバイト交通費	1,078
通信運搬費		0		6,896
			振込手数料	6,006
			レターパック	890
委託費		125,000		54,606
	会場運営費	125,000	会場運営費	54,606
講師謝金		200,000		88,806
	100,000円×2名	200,000	講師謝金	55,685
			講師交通費	33,121
消耗品費		0		1,503
			シルコット	327
			ウェットティッシュ	442
			紙コップ	734
懇親会費		600,000		242,000
	6,000円×100名	600,000	6,050円×40名	242,000
雑費		50,000		17,040
	雑費	50,000	クレジット手数料	3,240
			講演者用水代	6,000
			当日昼食代	7,800
合計		1,098,700		682,429

収支差額

△ 618,700

△ 502,429

※会誌編集業務の費用は前年度との差額